

## 観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和5年 10月 31日

## 1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを ○で囲むこと	広域連携DMO・地域連携DMO・ <u>地域DMO</u>	
観光地域づくり法人の名称	株式会社八幡平 DMO	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 岩手県八幡平市	
所在地	岩手県八幡平市	
設立時期	平成30年5月22日	
事業年度	7月1日から翌年6月30日までの1年間	
職員数	9人【常勤3人（正職員1人・出向等2人）、非常勤6人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 寺田 匡宏 （出身組織名） （株）岩手ホテルアンドリゾート取締役副会長 不動産カンパニー長	都市計画／建築コンサルタントにて25年以上に亘り地方計画の策定、開発許可取得などの行政協議、都市再生プロジェクトの企画とプロジェクトマネジメントを経験。その後、フィリピン・マニラ首都圏において Integrated Resort の企画、設計・建設、予算、財務、運営計画、渉外といった立ち上げ業務全般を事業者の現地責任者としてリード。PwC コンサルティング合同会社にて、IR 事業戦略室 事業開発リーダーとして、地方自治体のアドバイザー、民間事業者のコンサルティングを担当。2022年8月より、（株）岩手ホテルアンドリゾート取締役副会長に就任。2023年9月より（株）八幡平 DMO 代表取締役社長に就任。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 畑 めい子「専従」 （出身組織名） （株）クレセント取締役副社長	コピーライター・編集者として、岩手県内のテレビ、ラジオ、新聞、情報誌、観光パンフレット等の広告制作に携わる。2012年、岩手県政広報誌「いわてグラフ」編集長。八幡平市観光公式パンフレット「はちたび」プロデュースのほか、広域連携観光振興企画の実施、地元企業のブランド戦略サポート等、地域に密着した情報発信に。地域の観光事業者の合意形成を通じて、各種観光振興計画を提案、実施。八幡平観光地域づくり協議会会長、八幡平ファームステイ協議会会長。
財務責任者（CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー）	（氏名） 大下 幸夫「専従」 （出身組織名）	岩手県の第3セクターである IGR いわて銀河鉄道（株）にて営業部業務部長を担当し、売上部門を統括。現在は企画部部長に就任。

※必ず記入すること	IGR いわて銀河鉄道（株） 企画部部長	
取締役	（氏名） 柴田 亮 （出身組織名） 岩手県北自動車（株）マネージャー	（株）東京三菱銀行（現（株）三菱東京UFJ銀行）、（株）三菱UFJリサーチ&コンサルティング（金融機関の顧客満足度調査等）を経て、2008年より（株）経営共創基盤で復興支援事業に従事。2014年から、岩手大学三陸復興推進機構、COC推進室にて、特任准教授として三陸のものづくり企業の復興支援、大学生の地元定着の推進、大学生の起業家育成プログラム開発などに従事。雪質の魅力増進連携会議 代表
マーケティングディレクター（マーケティング、営業、商品企画、ビジネスディベロップメント担当）	（氏名） オバヤア ソンデス （出身組織名） （株）VARIO JAPAN	日系自動車メーカー研究所、日系大手旅行会社、海外サプライヤーの日本法人にて、研究者、アカウントマネージャー、新規事業開発、ビジネス拡大、日本法人経営を担う。旅行会社では、海外大使館と連携して、新しいデスティネーション開発とその販売を行う新事業を担った。フェニックス大学 MBA（Global Management）。日本語、英語、フランス語、アラビア語がネイティブレベル。岩手大学大学院工学研究科卒業
観光協会との連絡・調整	（氏名）海藤 美香 （出身組織名） （一社）八幡平市観光協会事務局次長	（株）岩手ホテル&リゾートで広報宣伝を担当し、2013年11月、（社）松尾八幡平観光協会（現八幡平市観光協会）に転職し、現在に至る。秋田県立大館桂高等学校卒
非常勤監査役	（氏名）佐々木政城 （出身組織名） （株）岩手銀行平館支店長	2021年10月 平館支店長。 株式会社八幡平DMOの株主であり、八幡平市の指定金融機関でもある岩手銀行から選任
非常勤監査役	（氏名）関本英好	八幡平市企画財政課課長。八幡平DMOの主な事業受託先である八幡平市からの選任
取締役 経営アドバイザー	（氏名）田村 正彦 （出身組織名） （一社）八幡平市観光協会会長	西根町議会議員（2期）、岩手県議会議員（3期）を経て、八幡平市長（4期）を務め、2021年より（一社）八幡平市観光協会会長に就任。株式会社八幡平DMOとの連携先であることから選任
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	岩手県八幡平市商工観光課（観光施策全般）	
連携する事業者名及び役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（一社）八幡平市観光協会（観光イベント・国内客誘客）</li> <li>・八幡平市商工会（商品開発・受入環境整備）</li> <li>・八幡平市ホテル協議会（スキー場（※）を含む受入環境整備・誘客） ※安比高原スキー場→ホテル安比グランド、八幡平リゾート下倉/パノラマスキー場→八幡平マウンテンホテル）</li> <li>・八幡平市産業振興（株）（商品開発）</li> <li>・（株）八幡平温泉開発（受入環境整備）</li> <li>・八幡平市企業懇談会（様々な事業で連携）</li> <li>・大黒森管理協同組合（バックカントリー開発）</li> <li>・八幡平市起業家支援センター（ITシステム整備）</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県北自動車（株）及び（株）みちのリトラベル東北（二次交通、ツアー商品造成・販売）</li> <li>・IGR いわて銀河鉄道（株）（ツアー商品造成・販売）</li> <li>・（株）クレセント（プロモーション、八幡平温泉郷の複合型商業施設、アルベルゴディフーズ事業で連携）</li> <li>・JR東日本びゅうツーリズム&amp;セールス株式会社（ツアー造成、販売、情報発信）</li> <li>・クラブツーリズム（株）（ツアー造成、販売）</li> <li>・（有）くらかね（サイクリング、マウンテンバイク等のコンテンツ開発）</li> <li>・（株）エムシーアール、（一社）日本テレワーク協会、KNT-CT ホールディングス（株）（ワーケーション開発）</li> <li>・（一社）東北観光推進機構 （広域DMO連携で、マーケティング調査やファムツアーの実施等を展開）、 ＜2018年11月～2019年3月にアンケート調査、広域動態調査等を「広域周遊観光促進のための観光地域支援事業」として展開中。また、来年度も訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業等で連携予定＞</li> <li>・（一社）秋田犬ツーリズム（「地域の観光資源を活用したプロモーション事業」で連携）</li> <li>・（一財）VISIT はちのへ（「地域の観光資源を活用したプロモーション事業」で連携）</li> <li>・株式会社かつの観光物産公社「（地域の観光資源を活用したプロモーション事業」で連携）</li> <li>・アトラク東北（株）（広域周遊商品造成、八幡平の体験プログラムのポータルサイトへの掲載、食の多様性対応で連携）</li> <li>・（株）リクルートライフスタイルじゃらんリサーチセンター 営業統括本部 旅行営業統括部 地域創造部 じゃらんリサーチセンター ジバ観研究プロジェクト（SBNR層をターゲットにした八幡平のリトリート/創造性開発プログラムの住民主体の開発支援）＜2019年2月～2020年3月＞</li> <li>・岩手県立大学総合政策学部宇佐美研究室（二次交通調査研究）＜2018年10月より調査を実施＞</li> </ul>
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	<p>（例）</p> <p>【該当する登録要件】①</p> <p>①取締役、理事など観光地域づくり法人の意思決定に関与できる立場で行政、文化、スポーツ、農林漁業、交通等の幅広い分野の関係団体の代表者が参画 代表取締役兼 CEO 寺田匡宏（（株）岩手ホテルアンドリゾート取締役副会長） 取締役兼 CMO 畑めい子（八幡平ファームステイ協議会会長） 取締役兼 CFO 大下幸夫（IGR いわて銀河鉄道（株）企画部部長） 取締役経営アドバイザー 田村正彦（（一社）八幡平市観光協会会長） 監査役 佐々木政城（岩手銀行平舘支店長） 監査役 関本英好（八幡平市企画財政課長）</p>
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	<p>八幡平市が主催する八幡平市観光振興審議会は、市内の主たる観光、商工事業者の代表等により構成されており、観光戦略策定など観光事業の中核となるDMOと連携する事業者・団体を代表する者により構成されている。当審議会は八幡平市観光振興計画の諮問機関を担っており、DMOと市内の観光関係者、地域事業者が企画立案した観光振興計画を審議、承認する。</p> <p>また、2020年3月新たに組成した八幡平市観光協議会（会長：八幡平市長）は、市観光振興計画の実施に向けて、八幡平DMOとともに企画立案し、その内容に関する関係者間の合意形成や、それぞれのテーマにそった事業を関係者が協働で実践する仕組みである。過去には「東北デスティネーションキャンペー</p>

	<p>ン」に向けた体験コンテンツの収集や、「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」で、八幡平 DMO と協働で事業実施に向けた部会を運営するなど、目的に応じた活発な活動が展開されている。また、第 4 期八幡平市観光振興計画では、八幡平 DMO が中心となって関係者と定期的なワークショップや意見交換等を実施しながら企画立案し、市観光協議会で協議するなど、観光関係者を巻き込みながら実践的な観光地域づくりを実施し、令和 4 年に施行された。</p>	
法人のこれまでの活動実績	(活動の概要)	
	事業	実施概要
	情報発信・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2018 年度情報発信・プロモーション事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 八幡平市の観光コンテンツ英語版を WEB/SNS で整備。</li> <li>② JNT0「日本東北遊楽日 2018 だいすき♡とうほく」出展とセットで楽吃購に出稿。</li> <li>③ 豪スノーポータルサイト「Powder hounds」において、八幡平市内のスキー場の掲載情報をアップデートし、広告出稿。</li> <li>④ 豪スノーリゾート情報誌「Snow Action」出稿</li> </ul> </li> <li>・ 2019 年度情報発信・プロモーション事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 八幡平市の観光コンテンツ英語版の内容を追加、新規に中国語版を WEB で整備。</li> <li>② 台北国際旅行展覧会出展</li> <li>③ DMP「VPON」を活用し、閑散期対策として台湾・香港向けに情報発信。</li> <li>④ 豪スノーエキスポ in シドニー 八幡平・安比ブースにて、前年度制作した「Snow Action」を 300 部配布。</li> <li>⑤ JNT0 コンテンツ登録</li> </ul> </li> <li>・ 2020 年度情報発信・プロモーション事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 八幡平市の観光コンテンツ英語版・中国語版の内容を追加。中国語版 SNS を開始。</li> <li>② スノーリゾート WEB 日本語版・英語版を制作。</li> <li>③ 豪旅行会社と宿泊施設とのオンライン商談会実施。</li> <li>④ JNT0 コンテンツ登録。</li> </ul> </li> <li>・ 2021 年度情報発信・プロモーション事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 2018 年度より制作してきた英語、中国語 WEB とスノーリゾート WEB を統一。</li> <li>② 英語・中国語での SNS による情報発信、海外からの取材対応。</li> <li>③ 地域の観光資源を活用したプロモーション事業（東北運輸局、Visit はちのへ、秋田犬ツーリズム、かづの観光物産公社との連携による、台湾向けレンタカー促進情報の発信）。</li> <li>④ アドベンチャーツーリズム ATTA オンライン参加。</li> <li>⑤ JNT0 のオンライン商談会参加。</li> </ul> </li> <li>・ 2022 年度情報発信・プロモーション事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 英語・中国語での SNS による情報発信。海外の取材対応。</li> </ul> </li> </ul>

		<p>② Visit はちのへ、秋田犬ツーリズム、かづの観光物産公社との連携による、台湾向けレンタカー促進情報の発信。</p> <p>③ 地域内のスキー場事業者と共同で、Snow Travel Expo in Sydney の出展。</p> <p>④ JNT0 のオンライン商談会参加。</p>
	受入環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2018 年度外国人観光客受入環境整備事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 観光事業者向け外国人観光客リアル対応セミナーの実施。</li> <li>② 外国人観光客が利用するプラットフォーム上の情報整備 (Google Maps, Trip Advisor)。</li> <li>③ 市内飲食店への多言語メニュー整備。</li> <li>④ 外国人観光客向け二次交通受入環境 (多言語バスガイド MAP) 整備。</li> </ul> </li> <li>・ 2019 年度外国人観光客向け受入環境整備事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 新型コロナウイルス対策セミナー実施</li> <li>② クレジットカード決済・電子マネー決済等キャッシュレス推進支援</li> <li>③ 市内観光コンテンツにおける海外エージェント向けの情報基盤整備 (ホテル情報、観光情報)</li> <li>④ 外国人観光客が利用するプラットフォーム上の情報整備と修正 (Google Maps, Trip Advisor、大衆点評)。</li> <li>⑤ 宿泊施設の人手不足・生産性向上を目指す RPA 導入可能性調査</li> <li>⑥ 外国人観光客向け二次交通受入環境 (多言語バスガイド MAP) 整備。</li> </ul> </li> <li>・ 2020 年度外国人を含む観光客受入環境整備事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 体験 OTA として TXJ 導入</li> <li>② 宿泊事業者の高齢化が進む八幡平温泉郷における泊食分離の実証実験</li> <li>③ 中長期滞在・ワーケーション受入環境整備</li> <li>④ ツリーラン・バックカントリーの外国人観光客受入に係る安全管理の為にルールの調整やリスクの見える化、アバランチコントロール調査</li> <li>⑤ 宿泊施設の人手不足・生産性向上を目指す RPA 運用</li> <li>⑥ 地域限定旅行業の取得 (外国人を含む観光客受入のためのランドオペレーター業務の準備)。</li> </ul> </li> <li>・ 2021 年外国人を含む観光客受入整備事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>① TXJ によるモニターツアーの造成・販売。</li> <li>② 八幡平温泉郷における泊食分離を起点とした「地域まるごとホテル」の実現に向けたシステム構築。</li> <li>③ ラーニングワーケーション、SDGs 企業研修カリキュラムの造成。</li> <li>④ 持続可能な観光に向けた第 4 次八幡平市観光振興計画の策定に向けた調整。</li> </ul> </li> <li>・ 2022 年外国人を含む観光客受入整備事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>① オンラインを活用した高付加価値な体験や旅行商品等のコンテンツ造成。</li> </ul> </li> </ul>



		<p>② 宿泊事業者の高齢化が進む八幡平温泉郷における泊食分離の実証事業。</p> <p>③ 中長期滞在・ワーケーションの受入環境整備。</p> <p>④ 八幡平の硫黄鉱山の歴史や日本初の商業用地熱発電所、サステナブルななりわい等を生かした企業研修コンテンツを造成</p> <p>⑤ 地域限定旅行業に加え、旅行サービス手配業（ランドオペレーター業務）を申請し、海外旅行会社のニーズに応える手配サービスを開始。</p>
	観光資源の磨き上げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2018 年農泊推進交付金事業 八幡平の地酒を活用した体験造成や日本酒と地域食材のペアリングディナーの開発</li> <li>・ 2019 年グローバルキャンペーンのためのコンテンツ造成事業 「サステナブルな新しい生き方を体感する里山、馬との暮らし体験コンテンツ造成」 「森のりんご園りんご尽くし体験造成」</li> <li>・ 2020 年誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成実証事業 「とびっきりの八幡平」造成&amp;制作委員会」 「サスティナブルな八幡平サイクルツーリズムを醸成するコンテンツ造成・ガイド育成事業」</li> <li>・ 2021 年国土計画協会高速道路利用地域連携促進事業 「アグリツーリズム八幡平」</li> <li>・ 2021 年岩手県旅行商品造成支援事業助成金事業 「八幡平ワーケーションプログラム開発」</li> <li>・ 2022 年地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「八幡平山弁」開発プロジェクト</li> <li>② いわて八幡平の地熱の恵みを、見て、知って、食べて体験！ 「親子でサステナビリティ学び旅」開発プロジェクト</li> <li>③ 馬が再生する野芝と水源地、その流域の食文化を巡る E-BIKE ライド</li> </ul> </li> </ul>
	観光客向け二次交通整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光客向け二次交通実証運行 ＜2018 年度＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>a, 長期滞在ツアー参加者向け秋季観光地周遊バス（6 日間。利用者数：84 名）</li> <li>b, スキー場と温泉を収集する冬期シャトルバス（7 日間、利用者数 10 名程度）</li> <li>c, タイガーエア便対応の花巻空港⇄八幡平温泉郷/安比ペンション/新安比温泉線の実証運行（12 月～3 月の毎水、土曜日 19 日間）</li> <li>d, 安比一大更ナイトシャトルバス（12 月末～3 月の毎週火、木、日）</li> <li>e, 八幡平温泉郷一大更ナイトシャトルタクシーの運行（2 月～12 日間運行） バス活用による八幡平二次交通アクセス向上施策</li> <li>f, 八幡平へのアクセス向上に向け、東北自動車道 岩</li> </ul> </li> </ul>

	<p>手山サービスエリアにバス停を設置する為の調査とアクションプランを策定。</p> <p>g, 岩手県立大学宇佐美研究室と連携し、自然散策バス、コミュニティバス、空港での訪日外国人を対象とした調査と学生による政策提言を実施</p> <p>h, 八幡平エリアを含むバス情報を Google Map で検索できるよう、みちのりホールディングスで GTFS (General Transit Feed Specification) 対応実施 (11 月)</p> <p>&lt;2019 年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光客向け二次交通実証運行 <ul style="list-style-type: none"> <li>i, 盛岡・八幡平温泉郷 冬期直通バス (路線バス) (12 月～3 月、80 日運行、254 人利用)</li> <li>j, 安比高原・八幡平温泉郷冬期シャトルバス (路線バス) (12 月～3 月、35 日運行 62 人利用)</li> <li>k, 安比・大更ナイトシャトルバス (路線バスに変更) (12 月～3 月、33 日運行 897 人利用)</li> <li>l, 八幡平温泉郷・大更ナイトシャトルバス (既存の路線バスの活用) (12 月～3 月の既存の路線バス利用の為、利用者把握できず)</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;2020 年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>盛岡—八幡平温泉郷冬期高速シャトルバスの運行</li> <li>安比高原—八幡平温泉郷 冬期スキー場間シャトルバスの運行</li> </ul> <p>&lt;2021 年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>八幡平温泉郷と市内の観光地を結ぶ周遊バスの運行</li> </ul> <p>&lt;2022&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冬期スキー場間シャトルバスの運行</li> </ul>	
--	---	--

(定量的な評価)

情報発信・プロモーション

・インバウンドのターゲット国 (台湾、オーストラリア) に対して情報発信を継続している。令和 2 年度の認知度調査によると、八幡平の観光コンテンツについて「何も知らない」と答えた人は、台湾で 8.6%、オーストラリアで 20.80%である。

受入環境の整備

・観光コンテンツの他言語対応については、ウェブの情報発信やパンフレット、市内飲食店の外国語メニューなどのソフト事業はほぼ完了している。市内の観光看板などハード面の整備は手付かず。

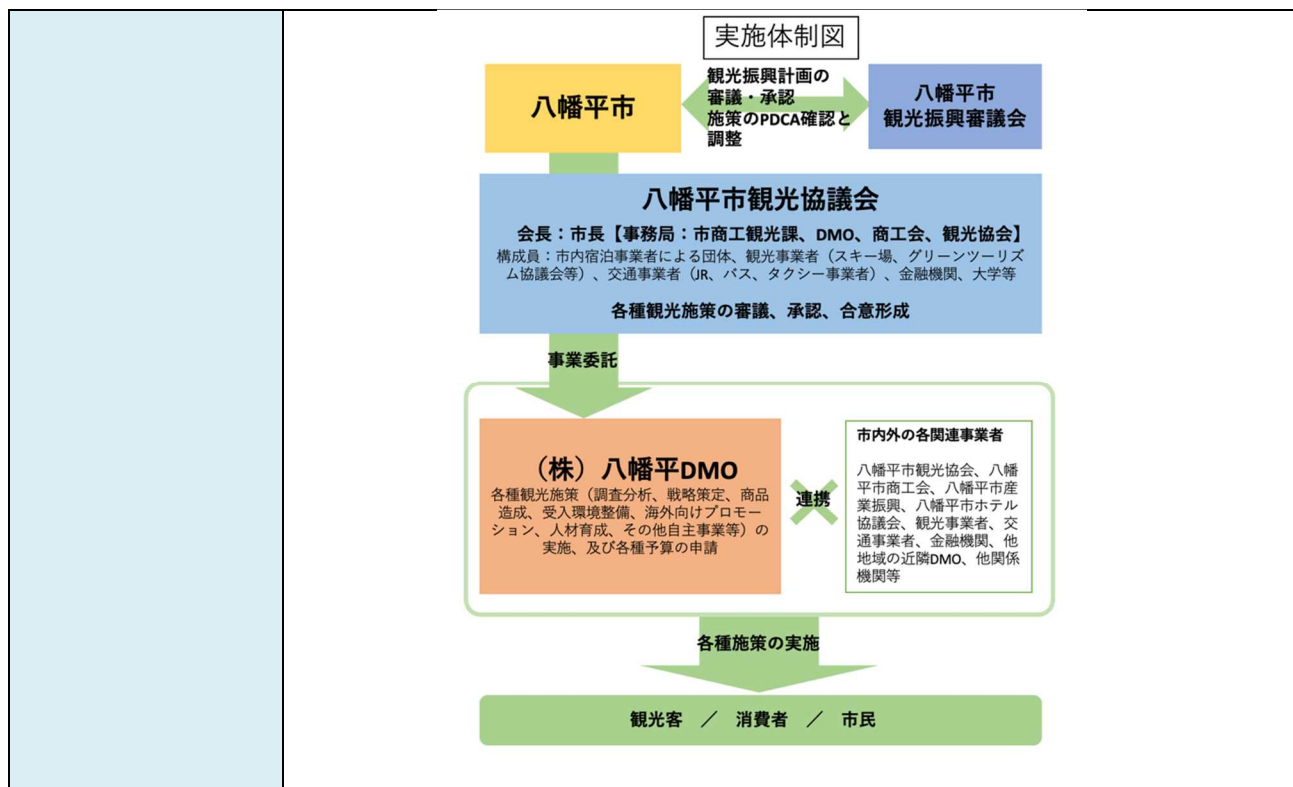
観光資源の磨き上げ

・インバウンドのスキー客に対し、バックカントリーやツリーランコースのルール化などを実施し、受入環境の整備が完了している。

・今後は、旅行消費単価の高いアドベンチャーツーリズムの受入環境整備に注力していく。

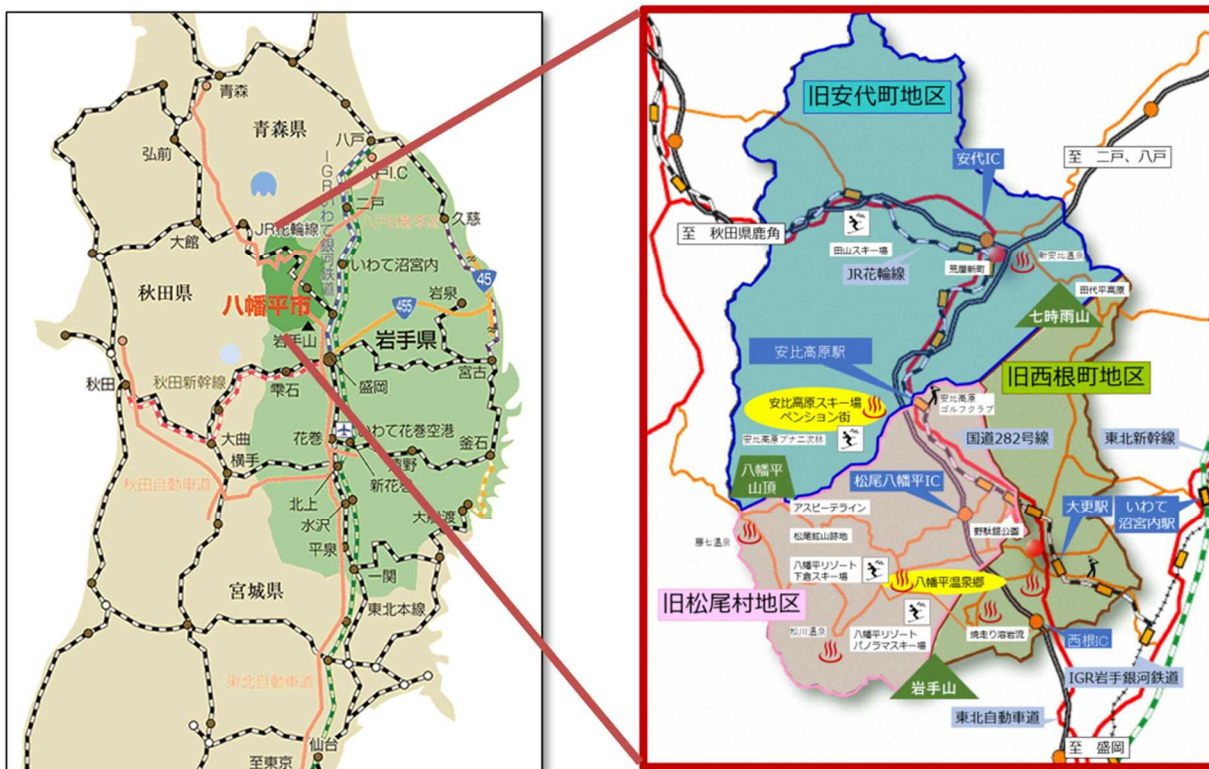
	<p>観光客向け二次交通整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の二次交通（バス）データを GTFS 形式にすることで、Google maps をはじめ国内の検索サービスに対応完了。</li> <li>・令和 3 年度、環境に配慮した電気バスのフィージビリティスタディを実施。環境にやさしいモビリティの可能性調査を開始している。</li> <li>・令和 4 年度、バスを使った散策マップを整備。</li> </ul>
<p>実施体制</p> <p>※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。</p>	<p>【実施体制の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八幡平の観光における一大リゾートである安比高原を有する（株）岩手ホテルアンドリゾートの取締役副会長が、代表取締役兼 CEO に就任し、（株）クレセント、（株）岩手県北自動車が主たる株主として、両社から取締役各 1 名が出向している。CEO の直下に CFO・管理部を置き、CMO 以下社員の事業を管理し、観光調査分析、海外向けプロモーション実施、二次交通実証運行など各プロジェクトを実施する。</li> <li>・市と DMO は日常的に連絡を取り、事業の進行状況などを確認している。</li> <li>・DMO が立案した戦略や事業計画は、市長が会長を務める八幡平市観光協議会にて提案、協議し、実施される。</li> <li>・施策の実行に関しては DMO が中心となり、八幡平市ホテル協議会、安比高原ペンションビレッジ会、八幡平温泉開発が取りまとめている八幡平温泉郷のペンション事業者と協力している。</li> <li>・「東北デスティネーションキャンペーン」（令和 3 年開催）への取り組みや、「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」（令和 2 年～）申請のように、地域全体に係る施策の推進、申請の協議等に関しては、八幡平 DMO が事務局となり八幡平市観光協議会で協議し、合意形成して事業を推進している。</li> <li>・モデルケースを構築するような事業においては、特定の事業者を先行的に協力してもらい事業を実施するケースが増えている。</li> <li>・訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成や農泊のコンテンツ造成などは、事業の親和性の高い複数の宿泊事業者、体験事業者等で連携してワーキンググループを作り、テーマ性の高い事業を推進することで、地域事業者の結びつきを強くしている。</li> </ul> <p>【実施体制図】</p>





## 2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



**【区域設定の考え方】**

本 DMO がマーケティングマネジメントする区域は八幡平市（以下、本市）全域とする。

**＜本市の位置と概要＞**

本市は、県都盛岡市の北西約 30 キロメートルに位置し、東は二戸市・一戸町・岩手町と、南は盛岡市・滝沢市・雫石町と、西は秋田県仙北市・鹿角市と、北は青森県田子町と、それぞれ接している。

古くから、秋田県や青森県へ通じる鹿角街道が縦貫し、現在では東北自動車道・八戸自動車道と国道 282 号、さらには JR 花輪線が縦貫しており、基礎的な交通基盤が整った地域であるとともに、秋田県や青森県を含めた北東北3県のほぼ中心に位置している。

本市の南端には秀峰岩手山（2,038 メートル）がそびえ、最高地点となっており、西部地域は、八幡平（1,613 メートル）をはじめとする奥羽山脈の山々が南北に連なり、中央部は前森山、七時雨山、田代山などの山々が横断している。本市は、東西約 25 キロメートル、南北約 45 キロメートルで広さは 862.3 平方キロメートルと岩手県の総面積の約 6 パーセントを占めている。

**＜地区別の特徴＞**

歴史的には、平成 17 年 9 月 1 日に西根町、松尾村、安代町が合併して誕生した。十和田八幡平国立公園八幡平地区を有し、日本百名山として岩手山、八幡平の2座がある。またそれぞれの地区に特徴的な地域資源や観光資源が存在している。

旧西根町地区には、国立公園内に国指定の特別天然記念物である焼走り熔岩流が 300 年以上前の火山噴火の様子を今に伝え、岩手山の登山口にもなっている。七時雨山麓の旧西根町地区側には、往時を今に偲ばせる鹿角街道（津軽街道）や斗内沢遺跡などがあり、ロマンをかきたてている。また、盛岡方面から八幡平市へ入る玄関口となっており、道の駅などの観光施設がある他、本市の人口と住宅の集積地である大更地区には、特徴的な飲食店や酒蔵などもある。最近では本市のリゾートで滞在した観光客に大更駅周辺で食事や買い物を楽しんでもらう試みなども進んでいる。

旧松尾村地区は十和田八幡平国立公園に代表される八幡平を有し、風光明媚な景観、豊富な温泉、スキー場、特色ある宿泊施設などが立地し、高原リゾートを形成している。地熱エネルギーの恩恵は、温泉だけでなく、地熱発電所や農業や染物などにも活用されている。八幡平～鹿角を縦断するドライブコースは八幡平アスピーテライン、八幡平から松川温泉に向かうコースは樹海ラインと呼ばれ、北国に春を告げる雪の回廊、初夏の新緑、秋の紅葉など四季折々の美しさを楽しませてくれる。また、旧松尾村地区には、往時東洋一の硫黄鉱山で「雲上の楽園」と呼ばれた松尾鉱山の遺構などもある。平成 28 年度には、十和田八幡平国立公園が国の「国立公園満喫プロジェクト」にも選定され、八幡平山頂見返り峠地区などのビューポイントの景観整備、外国人向けガイドツアーの開発やクオリティの高い宿泊施設の充実、海外への情報発信強化に取り組んでいる。

旧安代町地区は、縄文時代の遺跡から天然アスファルトや翡翠の勾玉が出土しており、太古から交流が盛んだったことを偲ばせる。鹿角街道沿いの交通の要衝として発展したこの町では、古くから漆器作りが盛んであり、国産漆を使った安比塗として知られている。また、日本有数のスノーリゾートである安比高原があり、4 度のスキー国体を開催するなど「スキーの町」の名を全国に馳せている。

冬期の外国人観光客の多くはこのスキーリゾートに滞在している。スキー場周辺では、ペンション街が広がっており、各々特色あるサービスを展開している。スキー以外には、夏の自然体験メニューも豊富で、安比高原に広がるブナ二次林の散策などが人気を集めている。

**【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】**

※観光資源の活用方法についても記入すること。

**（1）自然的観光資源**

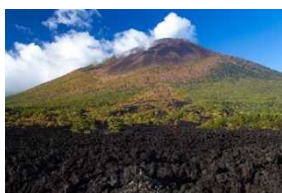
本市には、十和田八幡平国立公園八幡平地域の二つの日本百名山「岩手山」そして「八幡平」、国指定特別天然記念物「焼走り熔岩流」、新日本百名山に選ばれた「七時雨山」、秘湯「松川温泉」、日本名水百選「金沢清水」、日本の滝百選「不動の滝」等の数々の名勝、観光資源が存在する。火山の集積である八幡平では、種類豊富な高山植物や秋の紅葉が観光客を魅了している。

- |                    |           |
|--------------------|-----------|
| ●岩手山焼走り熔岩流         | ●智恵の滝     |
| ●十和田八幡平国立公園        | ●七時雨山     |
| ●八幡平ドラゴンアイ         | ●田代平      |
| ●八幡平アスピーテライン・樹海ライン | ●不動の滝     |
| ●松川溪谷              | ●横間の水芭蕉群落 |
| ●松川温泉              | ●七滝の氷瀑    |
| ●金沢清水              | ●御在所沼     |

## (2) 歴史的・文化的観光資源

縄文時代のストーンサークル「釜石環状列石」や、古くから牛馬放牧の証が残る「安比高原」、安比川流域に伝わる漆文化、江戸時代の物流を支えた鹿角街道、麴や酒造の発酵食品等、本市の歴史を知る上で欠かせない遺産や文化は、今もなお暮らしの中に息づいている。

- |                              |                                    |
|------------------------------|------------------------------------|
| ●安比高原（ブナ二次林）                 | ●八幡平市指定文化財（白坂の大鏡 等）                |
| ●田頭館山公園                      | ●史跡（一里塚、石碑、窯跡 等）                   |
| ●釜石環状列石                      | ●無形文化財<br>（平笠裸参り、山伏神楽、横間虫追い祭 等）    |
| ●野駄館公園                       | ●歌碑・詩碑<br>（江間章子詩碑、石川啄木歌碑、宮沢賢治詩碑 等） |
| ●鹿角街道と一里塚                    |                                    |
| ●県指定文化財<br>（木造地藏菩薩立像や南部絵暦 等） |                                    |



【焼走り熔岩流】



【八幡平ドラゴンアイ】



【安比高原（ブナ二次林）】



【ミツ石山の紅葉】

## (3) 主要な観光スポット

### 【遊ぶ・見る】

- |                     |               |
|---------------------|---------------|
| ●岩手山焼走り国際交流村        | ●分水嶺公園        |
| ●八幡平サーキットサンマリノグランプリ | ●妻の神オートキャンプ場  |
| ●長者屋敷清水             | ●県営松川キャンプ場    |
| ●桜松公園（不動の滝）         | ●サラダファームヴィレッジ |
| ●岩手県県民の森            |               |

### 【体験する】

- |                     |                                  |
|---------------------|----------------------------------|
| ●八幡平地熱蒸気染色 工房夢蒸染    | ●イーハトーヴォ安比自然学校                   |
| ●安比高原遊々の森（ブナ二次林の散策） | ●サイクリングやアウトドア等<br>体験メニューを持つペンション |
| ●安代そば道場             |                                  |
| ●荒屋新町商店街（郷土料理、クラフト） |                                  |

## 【学ぶ】

- |                         |                 |
|-------------------------|-----------------|
| ●松尾鉱山資料館                | ●イーハトーブ火山局      |
| ●八幡平市博物館                | ●松川地熱発電所        |
| ●西根歴史民俗資料館              | ●安比塗漆器工房        |
| ●松尾八幡平ビジターセンター          | ●岩手山銀河ステーション天文台 |
| ●森林ふれあい学習館 フォレスト I (あい) |                 |

## 【癒される】

- |                   |            |
|-------------------|------------|
| ●岩手山焼走り国際交流村焼走りの湯 | ●八幡平温泉館森乃湯 |
| ●いこいの村岩手          | ●なかやま荘温泉館  |
| ●おらほの温泉           | ●松川温泉      |
| ●藤七温泉             | ●新安比温泉     |
| ●八幡平温泉郷           | ●七時雨憩の家    |

## 【スポーツをする】

- |                              |                 |
|------------------------------|-----------------|
| ●安比高原リゾート                    | ●南部富士カントリークラブ   |
| ●八幡平リゾート パノラマスキー場・<br>下倉スキー場 | ●安比高原ゴルフクラブ     |
| ●田山スポーツゾーン                   | ●七時雨パラグライダースクール |
| ●安比高原 A S P A サッカー場          | ●八幡平市ラグビー場      |

## 【買い物をする】

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| ●道の駅にしね              | ●松っちゃん市場            |
| ●生産物直売所 (赤松どおりふれあい館) | ●ふうせつ花 (ざる豆腐と生ゆば)   |
| ●八幡平山頂レストハウス         | ●麴屋もとみや〜SHIMON0528〜 |
| ●松尾八幡平物産館「あすぴーて」     | ●安比清流山葵園            |
| ●ノレグレット (アイスクリーム)    |                     |

## (4) 主要な特産品・名産品

## 【食品】

- |             |                  |
|-------------|------------------|
| ●八幡平サーモン    | ●八幡平山葡萄商品        |
| ●八幡平マッシュルーム | ●安比まいたけ          |
| ●八幡平牛       | ●安比清流山葵          |
| ●杜仲茶ポーク     | ●日本酒 わしの尾        |
| ●西根ほうれん草    | ●ドラゴンアイオーガニックビール |
| ●ちぢみ小松菜     |                  |

## 【特産品・工芸品】

- |         |       |      |
|---------|-------|------|
| ●安代りんどう | ●地熱染め | ●安比塗 |
|---------|-------|------|

## (5) 主要なイベント

開催時期	イベント名
4月15日～5月31日	八幡平スプリングフェスティバル
4月15日	八幡平アスピーテライン開通式
4月下旬	八幡平樹海ライン開通式
5月3日	不動の滝まつり
5月3日～5日	八幡平さくらまつり
5月28日	七時雨山山開き
6月1日	八幡平山開き
6月第1日曜	七時雨マウンテントレイルフェス
6月中旬	残雪の裏岩手連峰開山祭
7月1日	岩手山山開き
8月15日	八幡平ふるさと花火まつり
8月下旬	八幡平ヒルクライム
8月最終土・日曜	出光イーハトーブトライアル大会 安比高原会場
9月上旬	あっぴりレーマラソン
10月の3連休	八幡平山賊まつり
上記の次の土・日曜	八幡平紅葉まつり
2月中旬～下旬	八幡平・安比ゆきフェスティバル

## 【観光客の実態等】

コロナ禍から正常化の過程で首都圏、インバウンドが回復しつつあるが、道半ば。インバウンドの国籍は多様化傾向にある。

図1 八幡平市の観光入込数の推移

県内、近隣の観光客からコロナ前と同様に県外が回復しており、宿泊客数も回復傾向。しかしながら、大型施設の閉鎖もあり、コロナ前までは回復していない。





図2 八幡平市の国内観光客の内訳

2021 年度は大幅に岩手県の客数は伸びたが、22 年はこれまで通り、首都圏が回復している模様（データ未反映）。



図3 八幡平市のインバウンド客の推移

コロナ前は外国人観光客は大きく伸び、2019 年には八幡平全体の 25%を占めた。2022 年によりやくインバウンドが復活したがまだ 3%に過ぎない。

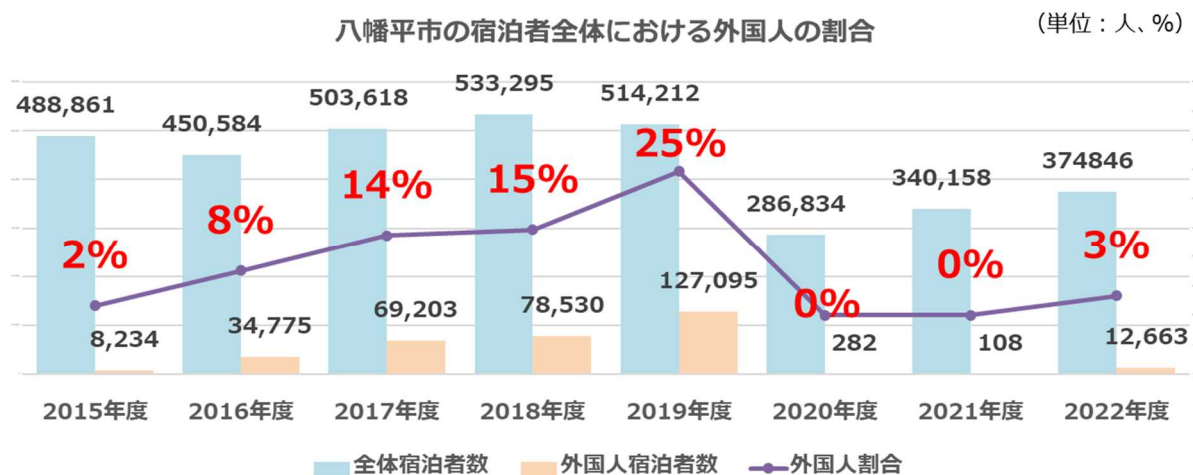
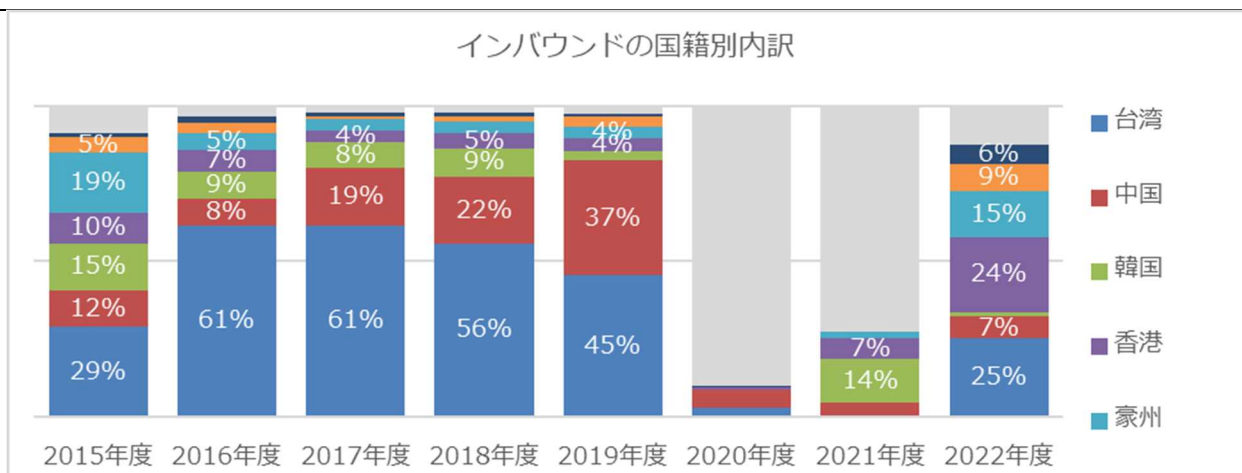


図4 八幡平市のインバウンドの内訳

コロナ前は台湾、中国が8割を超えて偏っていたが、2022年度のインバウンド回復過程では中国の割合が低く、香港や豪州の割合が多くなっている。



**図5 八幡平市(安比高原)の月別の宿泊者数推移**

月別の動向では、8月（帰省＋東北夏祭の拠点）、10月（紅葉）、1月～2月（スキー）が繁忙期）

**⇒3月～7月、9月、11月の宿泊者数は課題**

回復途上の為、判断が難しいがコロナ前に比べると6月の宿泊の落ち込みが減っており、ドラゴンアイ（6月の雪解けに見られる現象）の効果が出てきた可能性がある。

季節変動の要因としては県内客よりも県外客の影響が大きい（8月、10月、1月の伸びの要因）



八幡平市の月別の宿泊者数推移



2017年～2019年平均での月別県内、県外比率

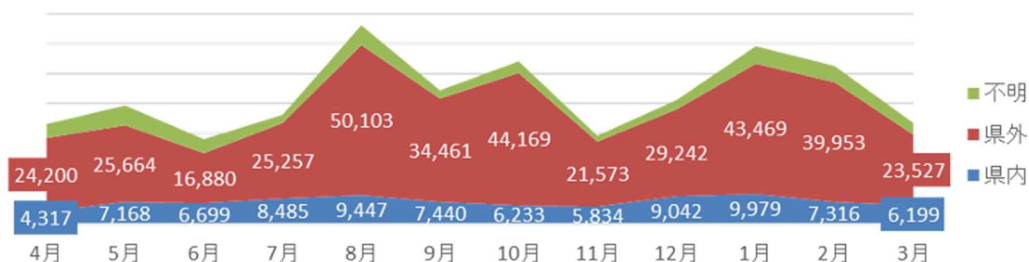


図6 八幡平市(安比高原)のインバウンド客の宿泊者数推移、内訳

コロナ前の傾向ではあるが、外国人は10月、1月、2月がピーク。

10月の紅葉は圧倒的に台湾人が多く、スノーシーズンは中国、豪州、香港、韓国も多く、多様化する。7月、8月には韓国からのゴルフ客も来る。

訪日外国人の月別宿泊状況(2017年～2019年平均)

単位:人

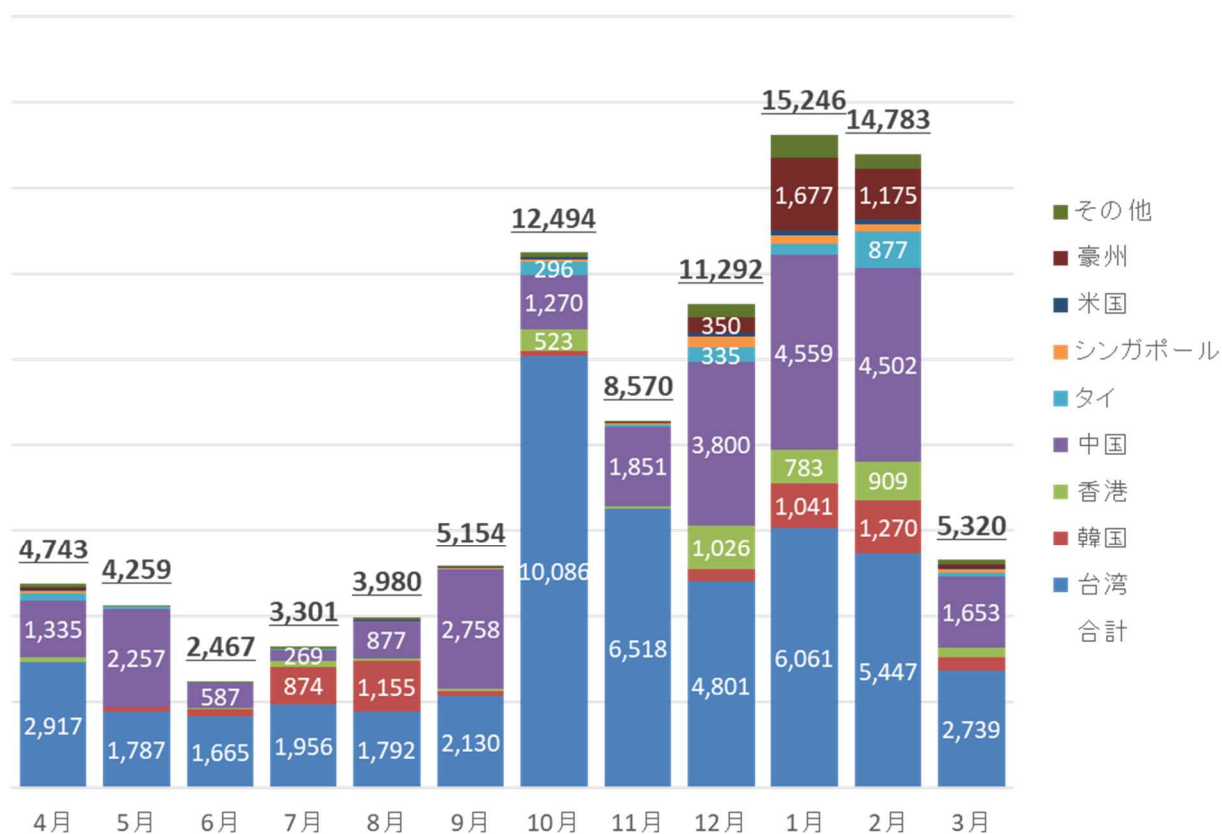
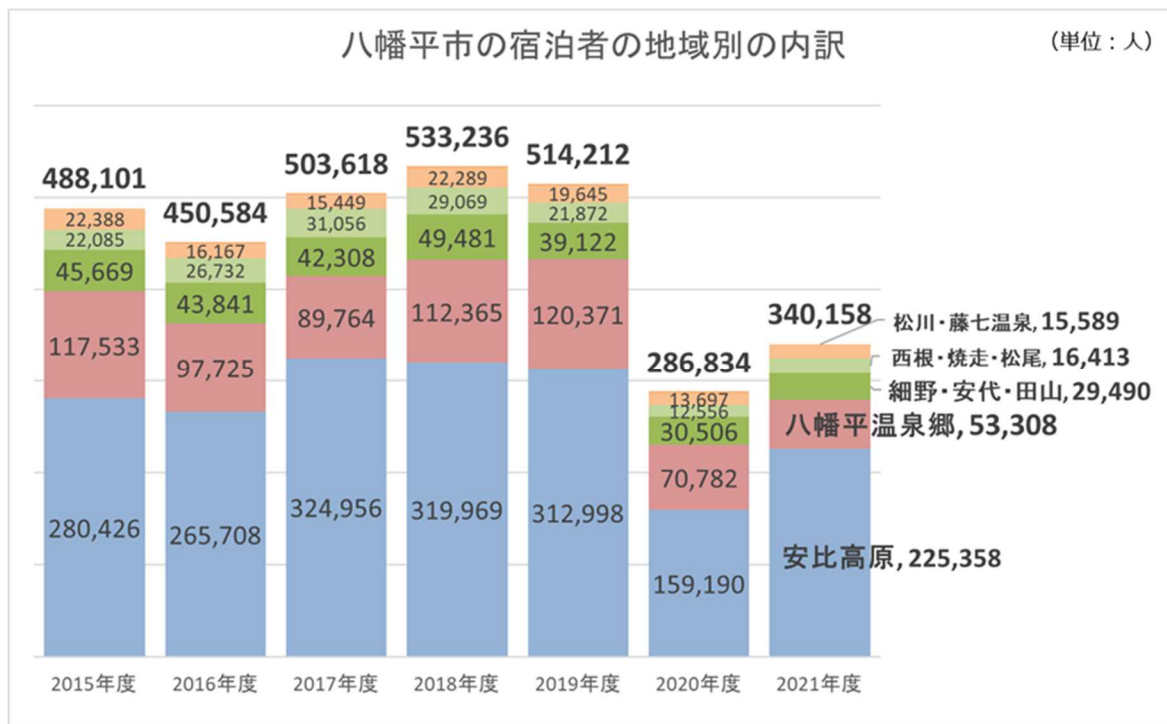


図7 宿泊者数の宿泊地域別内訳

宿泊者数を地域別に見ると、安比高原のシェアが約半数から6割を占め、八幡平温泉郷が2割、細野・安代・田山地区が1割で、残りが西根地区と松川地区に分かれるようなイメージである。

令和2年度末（2020年度末）に八幡平温泉郷で部屋数の多かったホテルが閉館したことに伴い、令和3年度（2021年度）では八幡平温泉郷の割合が減少し、安比高原の割合が増えている。



八幡平市「観光入込客数調査」

※県への報告は年間10,000人回以上の施設等が対象であるが、本資料では市内の全施設の入込客数/宿泊客数を集計



## 【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

## 施設数

	ホテル	旅館	ペンション	民宿	キャンプ場	合計
西根・焼走・松尾	2	1			3	6
八幡平温泉郷	3		13	2	5	23
松川・藤七温泉		4	1		1	6
安比高原	4		18			22
細野・赤坂田		1	1	19	1	22
安代・七時雨・田山	1			3		4
総計	10	6	33	24	10	83

## 宿泊可能数（人）

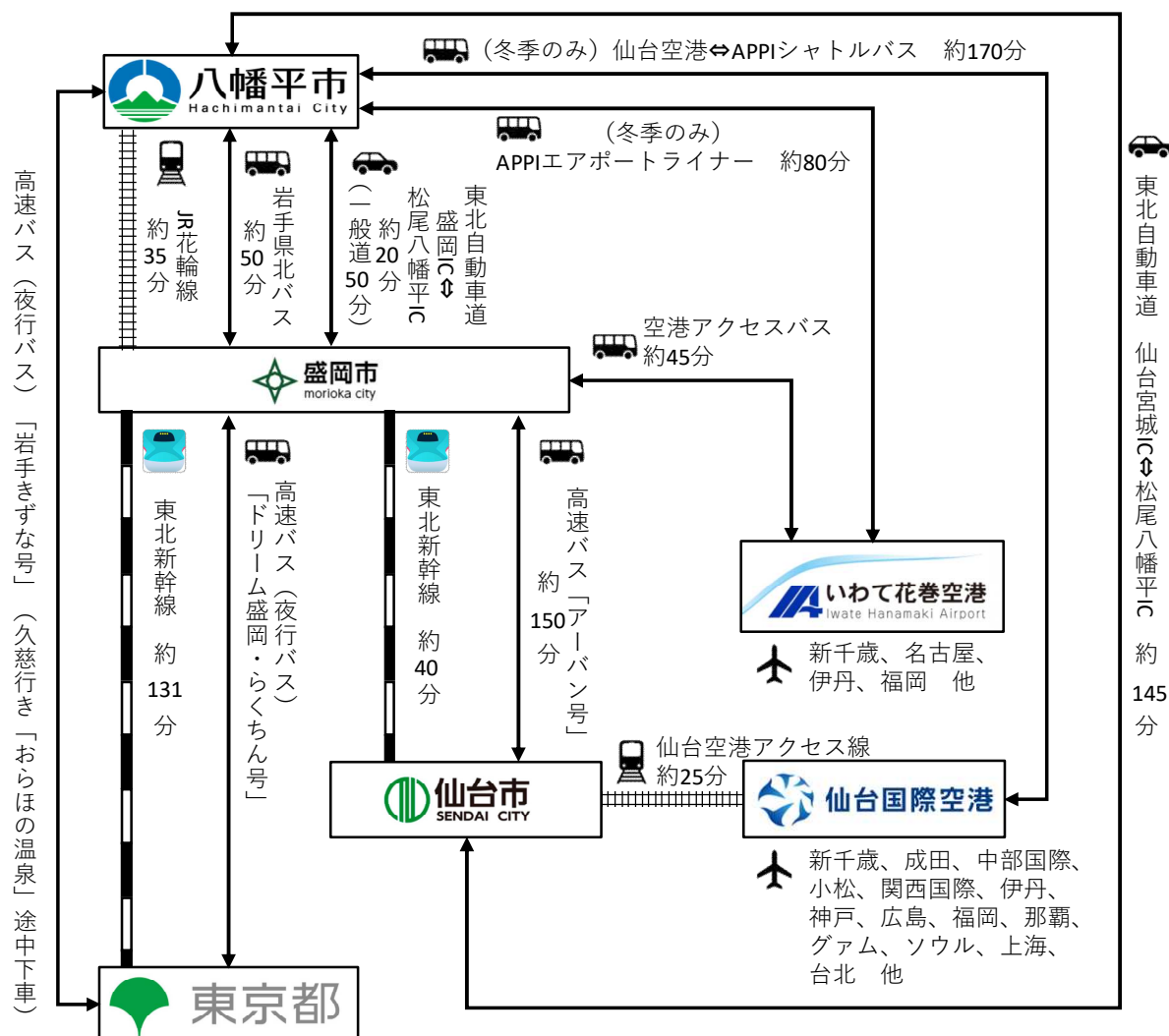
	ホテル	旅館	ペンション	民宿	キャンプ場	合計
西根・焼走・松尾	170	24			830	1,024
八幡平温泉郷	609		269	25	470	1,373
松川・藤七温泉		292	12		140	444
安比高原	5,166		462			5,628
細野・赤坂田		40	44	868	25	977
安代・七時雨・田山	227			100		327
総計	6,072	356	787	993	1,465	9,673

## 宿泊可能数（室）

	ホテル	旅館	ペンション	民宿	キャンプ場	合計
西根・焼走・松尾	50	6			244	300
八幡平温泉郷	185		98	10	129	422
松川・藤七温泉		107	6		70	183
安比高原	1,075		159			1,234
細野・赤坂田		19	10	222	10	261
安代・七時雨・田山	56			27		83
総計	1,366	132	273	259	453	2,483

新設施設他、集計漏れ施設の再集計によって増加しているものもある。

## 主要な交通ネットワーク図



1. 盛岡から

路線バス「岩手県北バス」1 日約 20 往復、盛岡駅→大更駅まで約 50 分、八幡平リゾートホテルまで約 100 分、松川温泉まで約 120 分など

自動車 東北自動車道 盛岡 I.C.→松尾八幡平 I.C. 約 20 分

その他、夏季シーズンに八幡平自然散策バス、宿泊者専用無料シャトルバス

冬季シーズン(スキーシーズン)に安比高原へ結ぶ路線バスなどあり

鐵道「東北新幹線」東京→盛岡、最速 131 分

高速バス(夜行バス)「ドリーム盛岡・らくちん号 他」東京→盛岡

高速バス(夜行バス)「岩手きずな号(東京→久慈)」を途中、おらほの温泉で下車

自動車 浦和料金所→松尾八幡平 I.C. 約 6 時間～8 時間

3. 仙台から（仙台→盛岡、盛岡以降は上記「1.盛岡駅から」ご参照）

鉄道「東北新幹線」仙台→盛岡、最速 40 分

高速バス「アーバン号」1 日約 20 往復、仙台→盛岡まで約 150 分

高速バス「大館仙台線（仙台→大館・鹿角）」を途中下車、仙台→安代まで約 240 分

自動車 東北自動車道 仙台宮城 I.C.→松尾八幡平 I.C. 約 135 分

4. いわて花巻空港から

路線バス「空港アクセスバス」1 日 4 往復 空港→盛岡まで約 45 分

（盛岡以降は上記「1.盛岡駅から」ご参照）

（冬季のみ）高速バス「APPI エアポートライナー」1 日 1 往復、空港→安比高原まで約 80 分

自動車 釜石道 東北自動車道 花巻空港 I.C.→松尾八幡平 I.C.約 50 分

※ 花巻空港へは、新千歳、名古屋、伊丹、福岡からの定期便が就航している他、台湾、上海からの定期便も運航している（現在新型コロナウイルスの為休止中）。

5. 仙台国際空港から

鉄道「仙台空港アクセス線」空港→仙台駅まで約 25 分「東北新幹線」仙台→盛岡最速 39 分

（盛岡以降は上記「1.盛岡駅から」ご参照）

（冬季のみ）高速バス「仙台空港→APPI シャトルバス」1 日 1 往復、空港→安比高原まで約 170 分

自動車 仙台東部道路 東北自動車道 名取 I.C.→松尾八幡平 I.C.約 170 分

※ 仙台国際空港へは、新千歳、成田、中部国際、小松、関西国際、伊丹、神戸、広島、福岡、那覇、グアム、ソウル、上海、台北、からの定期便が就航している。

6. その他

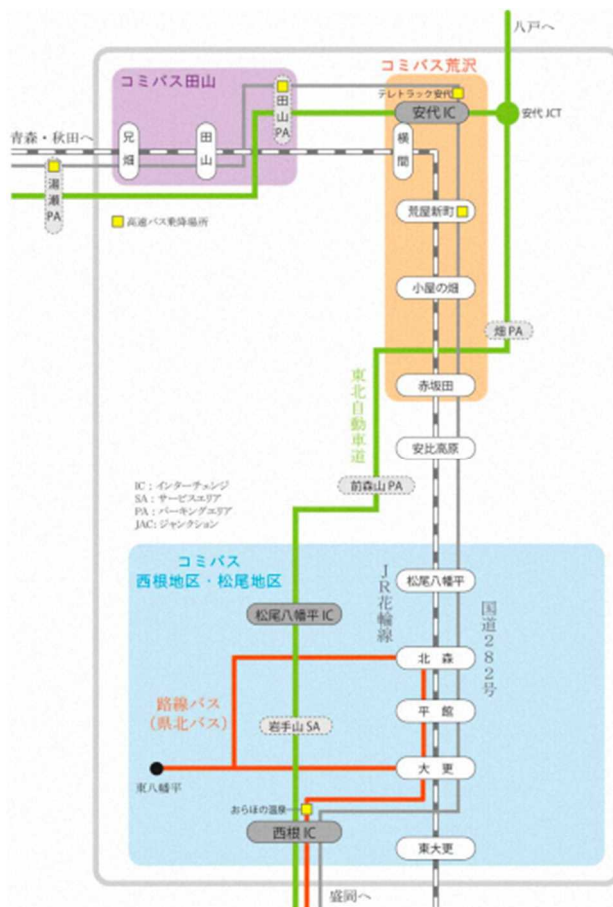
八戸 I.C.→安代 I.C. 約 70 分

青森 I.C.→安代 I.C. 約 100 分（青森空港→安代 I.C. 約 90 分）

大館能代空港→安代 I.C. 約 70 分（青森空港→安代 I.C. 約 90 分）

### ＜域内交通＞

1. 鉄道・・・JR 花輪線が市内に 12 駅あり、安代地区と西根・松尾地区を結ぶ他、安比高原へのアクセスにも利用されている。市外へは盛岡と秋田県大館を結んでいる。1 日 8 往復。
2. 路線バス・・・盛岡バスセンター、盛岡駅から大更駅を軸に田頭を経由して松尾方面へ向かう路線と病院やスーパー等の主要な施設が立ち並ぶ国道 282 号を沿って平館駅方向に行く 2 つの方向に伸びている。1 日約 20 往復。
3. コミュニティバス・・・西根地区 (4 路線)、松尾地区 (2 路線)、安代地区 (9 路線) 各、1 日 1～2 往復程度を運行している。
4. タクシー・・・市内には 3 つのタクシー事業者があり、ジャンボタクシー 4 台、中型 2 台、小型 20 台ほどが保有されている。



### 【外国人観光客への対応】

- ・地域の二次交通（バス）データを GTFS 形式にすることで、Google maps をはじめ国内の検索サービスに対応完了。
- ・多言語のバスマップを制作し、外国人観光客向けに整備。

## 3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	オープンデータを活用（観光庁「旅行・観光消費動向調査」「訪日外国人消費動向調査」岩手県「いわての観光統計」（公財）日本交通公社「JTB 旅行者調査」REASAS、観光予報プラットフォームの活用
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	八幡平市役所が実施。市内の宿泊施設や観光施設に入込数、宿泊者数（延人数及び実人数。日本人は県内、県外別、外国人は居住国別）教

		育旅行数（学校、県、生徒数、泊数）のデータを収集。各宿泊施設はフォームを記入し、FAX、メールで提出。回収率は市内宿泊施設の約50%。
来訪者満足度	来訪者の満足（不満足）に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため。	八幡平 DMO が実施。市内約 80 の宿泊施設とスキー場に QR コードによるアンケート実施。毎月抽選でギフトカードが当たる仕組みにしている。70 カ所から回答が少なくとも一つ以上あり、2022 年は 1600 サンプルの回答を得た。
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	八幡平 DMO が実施。市内約 80 の宿泊施設とスキー場に QR コードによるアンケート実施。毎月抽選でギフトカードが当たる仕組みにしている。70 カ所から回答が少なくとも一つ以上あり、2022 年は 1600 サンプルの回答を得た。
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	Google アナリティクスを活用。
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	八幡平 DMO が事業者に向けて経営や支援ニーズの調査をアンケート形式で実施。市民に向けて市内観光に対する認識やシンビックプライドなどの調査も今春から実施予定。

## 4. 戦略

### （１）地域における観光を取り巻く背景

本市の観光振興については、平成 29（2017）年度に 令和 3（2021）年度までの 5 カ年を目標とする「第 3 期八幡平市観光振興計画」を策定し、「日本の美しい四季と暮らし ナショナルパーク八幡平」を将来ビジョンに掲げ、8 つのアクションプランを重点に置き、観光振興における取組みを推進してきた。

平成 30（2018）年 5 月には、観光旅行者の価値観やニーズの多様化等の変化に的確に対応し、魅力ある観光地域づくりの推進主体である、株式会社八幡平 DMO を観光地域づくり法人として設立し、インバウンド施策への取組を強化してきた。

また、平成 31（2019）年 2 月には、一般社団法人八幡平市観光協会が十和田八幡平国立公園八幡平地域内の鏡沼の雪解けの現象を世界に誇れる新たな観光コンテンツとして、「八幡平ドラゴンアイ」を商標登録し、国内外に向けた情報発信により、現在は国内外から多くの観光客が訪れる人気スポットとなった。

しかし、令和元（2019）年 12 月に海外で初めて確認された、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大したことにより、観光を取り巻く環境が一変し、本市においても、令和元年度（2019 年度）の訪日外国人旅行者数は約 13 万人から令和 3（2021）年度の約 100 人まで減少し、壊滅的な打撃を受けた。国内旅行においても、感染症の流行に伴う旅行のキャンセルや外出自粛の影響により、観光需要は大幅に落ち込み、観光業は大きな転換期を迎えることとなった。



そうした中、観光地においても密の回避や非接触化に対する旅行者のニーズが高まっており、デジタル技術を活用した新たなサービスの提供による、感染拡大防止と社会経済活動の回復を両立していくための取組みが推進されている。令和4（2022）年度のインバウンド再開については、空路がない東北地方は復活が遅かったものの、八幡平市では、スノーシーズンから徐々に復活の兆しが現れている。

本市としても、こうした方向性を確実に捉え、豊かな自然、食、文化、歴史等の観光の魅力を国内外に発信し「選ばれる観光地」になることで、地域経済の好循環が生まれ、雇用機会の増大、交流人口の拡大、消費の拡大に繋がることを目指している。

## （２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p><b>強み（Strengths）</b> ・自地域で積極的に活用できる強みは何か？</p> <p>北東北に引き継がれてきた独自の文化風習 ・北東北の食材と食文化（雑穀、蕎麦、日本酒、発酵等） ・木地を作り、漆も採取できる漆器文化、古代から伝わる馬事文化 ・環境や自然と共生した暮らしを目指して、馬と協働し、馬を活用した新しい暮らしに挑戦する若者 ・豊富な観光資源…自然（雪・桜・紅葉）、スキー場、（バックカントリーが楽しめる） ・豊富で効能豊かな温泉 ・宿泊施設が多い（県内1位）…国際会議開催可能施設 ・グローバルブランドの宿泊施設の開業（ANA インターコンチネンタル安比高原） ・イギリスの名門校、ハロウインターナショナルスクール安比ジャパンの開校による、国内およびアジア富裕層からの注目度の高さ ・若手事業者（後継者クラス）の活気がある ・安比高原の国際的な露出の高さ（CNN：10 top ski resorts to visit this winter（2017）、World Ski Awards：Japan's Best Ski Resort 2017 nominees, Yahoo International：8 best ski resorts in Asia（2013）、National Geographic：the best palces to take in 2020(2019)） ・イーハトーヴォ安比自然学校の農村体験プログラム ・ファミリーフレンドリーなサービスの安比高原と日本一の緩斜面で安心の八幡平リゾートパノラマスキー場</p>	<p><b>弱み（Weaknesses）</b> ・自地域で改善を必要とする弱みは何か？</p> <p>・ナイトタイム ・低い認知度 ・二次交通 ・外国人向け案内所、対応ガイドが少ない。現地で当日にアクティビティが手配しにくい ・外国人向け観光情報が整備されていない（商店街・通りの名前がない） ・カード決済可能な店が少ない ・八幡平ブランドが確立されていない ・特産品・販売店の少なさ ・海外商品がない ・宿泊者への求職者減少 ・体験メニューが少ない ・宿泊施設の人手不足、事業承継の問題 ・IT化対応が遅れている</p>
外部環境	<p><b>機会（Opportunity）</b> ・自地域にとって追い風となる要素は何か？</p> <p>・物見遊山よりコト消費傾向で、本物志向で地元との交流や地元の人を楽しむものを重視するコミュニティベースドツーリズム ・サステナブルツーリズムへの意識の高まり</p>	<p><b>脅威（Threat）</b> ・自地域にとって逆風となる要素は何か？</p> <p>・感染症のパンデミック ・気候変動に伴う雪不足 ・岩手山の噴火の可能性 ・東北への海外からの直行便の少なさ</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンドのゴールデンルートから地方への拡散</li> <li>・LCC（格安旅行会社）の増加</li> <li>・個人観光客が増加</li> <li>・アジア新興国の中流所得層の増加</li> <li>・市内事業者の外国人客受け入れ意識が高まりつつある</li> <li>・2022年の北京五輪に向けて急増する中国人スキーヤー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内スキー客の減少</li> <li>・国内シニア観光客の減少</li> <li>・国内サービス事業への求職者減少</li> <li>・ネット予約者増加によるキャンセル率の増加</li> <li>・国内におけるペットを飼う人の増加</li> <li>・国内所得の減少</li> <li>・マナーの悪い外国人観光客の観光公害</li> </ul>
--	--

※上記に加え、P E S T 分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

### （３）ターゲット

#### ○第１ターゲット層

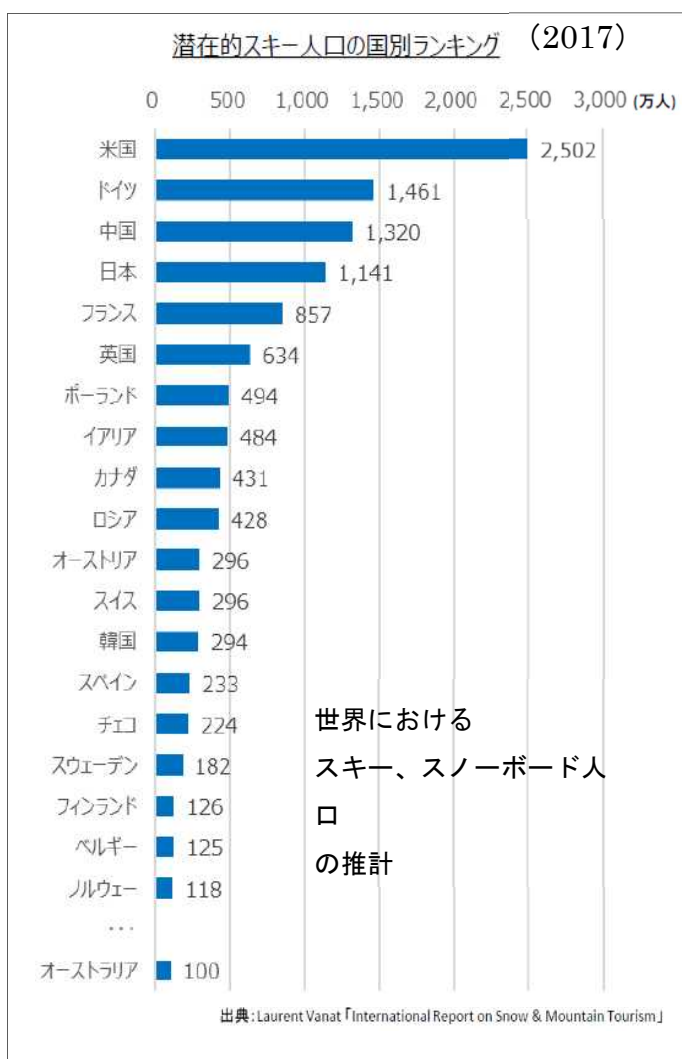
拡大するスキー市場を狙う中国人富裕層ファミリー（20～40代）

#### ○選定の理由

八幡平は通年でもスキーシーズンでも台湾と中国で2/3を占める。平成30年度では台湾がやや減少したものの、花巻空港に上海便が就航したことと平安保険グループのインセンティブ旅行が安定的に訪れたことで中国からの観光客が増加した。この二大市場は日本全国への送客の割合やリピートの傾向から考えてもまだまだ拡大余地があり、主要なターゲットとなる。

特に中国は潜在的スキー人口でも1320万人と米国、ドイツに次ぐ3番目の市場に成長しており、さらに2022年には冬季北京オリンピックが開催され、一層のスキー人口の増加が期待される。欧米豪や東南アジアと比べても日本へのアクセスが近い上、中国国内のスキー場の雪質は固いため、日本のパウダースノーが訴求する市場である。

クレディスイス2019年版「グローバル・ウェルス・レポート」によると、純資産100万ドル以上の資産を持つミリオネアが444万7千人で世界2位の規模である。かれら富裕層は高い教育水準やグローバルな教養を身に付け、マナーや行動も中国人団体旅行者と一線を画する。消費スタイルや旅行スタイルも成熟した個人型であり、体験型の観光や文化交流を好み、非常に活発なアクティビティも実践する。



八幡平はこうした個人型で成熟した富裕層の中国人を狙っていく。

中国や台湾の旅行者は家族旅行で訪れる人も多く、ファミリーに優しいスノーリゾートと打ち出して大きなパイを狙って行くこともできる。特に 80 年代以降に生まれた「80 后」と呼ばれる世代以降の若者は、洗練された消費感覚を持ち、マナーにも敏感で地域も受入れやすいターゲットとなる。現在中国は、厳格な「ゼロコロナ」政策が続いているが、八幡平・安比の雪質や、富裕層向け宿泊施設などの強みを生かしながら、中国富裕層マーケットへのアプローチを継続していく。

#### ○取組方針

##### 【コミュニティからの開拓】

中国の旅行流通市場はかなり特殊であり、旅行会社などの企業による流通以上に、知り合いや親族などのコミュニティによる口コミや紹介の影響力が強い。（博報堂生活総研（上海）レポート）

趣味の分野でもネット上の趣味のグループ・コミュニティが形成されており、在日中国人のスキーヤーが本土のスキーヤーのコミュニティとつながって、よいスキー場の紹介を行ったりしている。

「日中アウトドア交流推進会」などがそうしたコミュニティを担う団体で、現在、八幡平ではこうしたコミュニティから中国市場の開拓を図ろうと考えている。

具体的にはコミュニティのメンバーをモニターツアーに招聘し、その体験を中国側のコミュニティに伝えてもらう。その際に中国ナンバー 1 口コミサイトの Mafengwo（馬蜂窩）を活用することでそうした口コミがコミュニティを超えて広がるように工夫する。

##### 【旅行会社営業】

そのうえで、安比に興味を持った富裕層のファミリーが簡単に手配できるように本土の旅行会社への営業開拓を継続して実施する。中国市場のオンライン化は台湾以上に進んでいる為、オンラインでの受入環境整備を重視して実施する。

##### 【個人旅行を開拓する為の情報基盤整備】

個人旅行化が進む中国人が現地で食事や買い物などで困らないように中国語のインターネット上で簡体字表示の整備やアリペイ、ウィチャットペイの導入も推進する。令和元年度には八幡平 DMO で中国のポータルサイトであるバイドゥ（百度）上の八幡平の観光情報整備を行ったので、来年度以降に中国での店舗検索/口コミ大手の大衆点评や美团点评での情報掲載を推進する。

##### 【インストラクターと雪遊びの充実】

中国人をはじめとしたアジア人の家族のニーズを満たすにはスキースクールとスキー以外の雪遊びの充実が求められる。安比高原でははじめてスキーをする子供が安心してスキーに慣れるための安比ハッピースキースクールがある。これに加えてインストラクターの数を増員して中国人スキーヤーのニーズに応える。

また、安比高原にはチュービングなどが楽しめる 2 つの雪遊びエリアがあるので、それを活かしていく。八幡平リゾートパノラマスキー場でも雪遊びエリアが充実している上、緩斜面が特徴のゲレンデを活かしてファミリー対応を訴求していく。両スキー場ともスキー場から楽しめるスノーシューコースが充実しており、特にパノラマスキー場からアクセスする氷瀑は迫力があって外国人の関心も高いので、これらも魅力として訴求していく。

##### 【ハロウスクールとの相乗効果】

口コミや情報発信については、スキー場だけでなく、ハロウインターナショナルスクール安比ジャンプの話も併せて発信する。ハロウスクールのターゲットと我々のターゲットが重なる為、併せて紹介することで認知度向上の相乗効果があるだけでなく、安比八幡平が知的で上質なスノーリゾートであるという印象を持たせることができる。

##### 【グリーンシーズンへの展開】

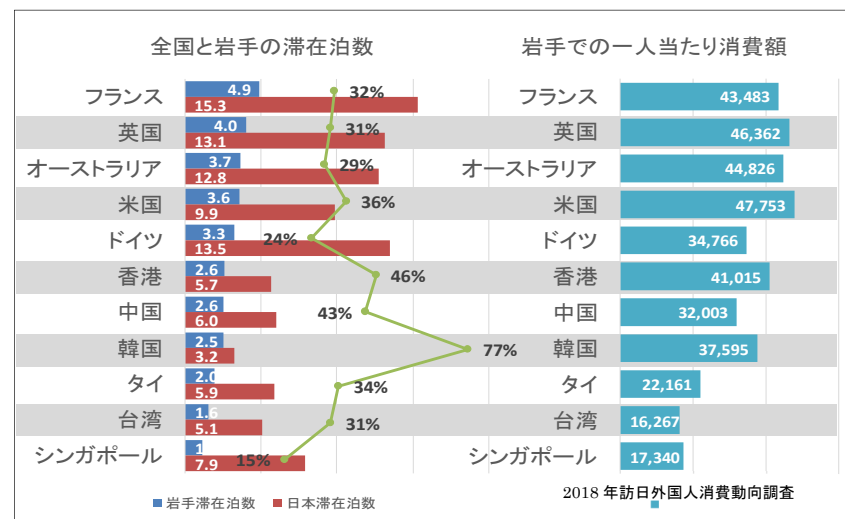
北京オリンピックの流れがあるので、八幡平をスノーリゾートとして印象付けることが有効であるが、すでに紅葉やドラゴンアイを訪れるツアーなども人気が出てきており、グリーンシーズンの魅力も併せて訴求していく。

## ○ターゲット層

豪州のバックカントリースキーヤー→ファミリースキーヤー  
(20代～30代の若者→将来のファミリー)

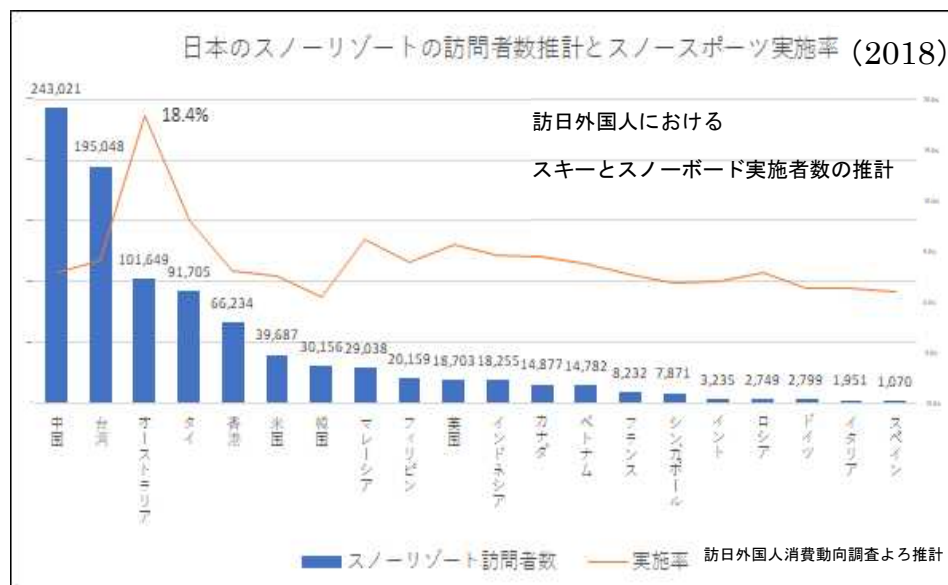
## ○選定の理由

上質なスノーリゾートを目指す意味では、上質な世界のスキー場を知る欧米豪の開拓が重要である。世界を知る欧米豪と向き合ってブラッシュアップを行うことでアジアも含めた富裕層に訴求することができると考えられる。



また欧米豪の旅行者は岩手県での滞在日数も長く、岩手での1日当たりの消費額も高く、魅力的なターゲットとなる。特に、日本においては豪州市場が欧米豪の中でスノーリゾート訪問者数のシェアが圧倒的に大きく、豪州人は訪日外国人の中で最もスノースポーツの実施率が高い。米国は国内に魅力的なスキーリゾートが多数あり、国外でスキーをやる誘因が少なく、同様に欧州は欧州国内での移動がほとんどである。

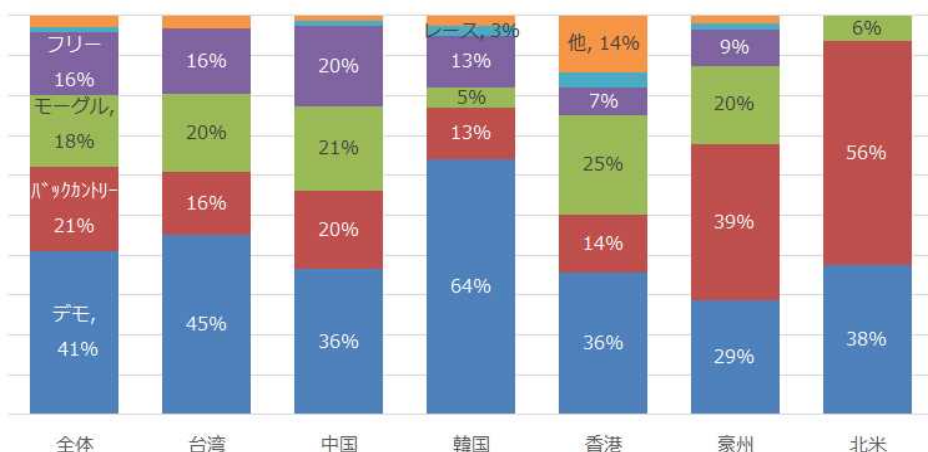
豪州においては一番近い大規模



で雪質のよいスキーリゾートが日本である為、日本でのスノースポーツ実施率が高いと考えられる。

こうした豪州市場開拓のカギとなるのはバックカントリーである。アジアと違い、欧米豪のスキーヤーのスタイルの主流はバックカントリーであり、ゲレンデを主に滑るデモスキーヤーの中にもバックカントリーに憧れている人は相応に多いと考えられる。

国籍別のスキースノーボードのスタイルの割合



東北観光推進機構/八幡平DMO「冬季滞在者に対する対面式による満足度・消費額調査報告書」平成31年1月～2月 ©八幡平

豪州のバックカントリースキーヤーは必ずしも若者だけでなく、50代、60代の友人同士や夫婦での訪問も多いが、将来子供も引き連れてリピーターしてもらうことを狙って、20代や30代の若い層を狙う。世界のトップスキー場の一つである米国のヴェイルでも、バックカントリーを入口にファミリーでの再訪を狙う戦略を立てているが、ファミリースキーの場合はスキー場の決定要因として、子供を安心して連れていける

馴染みのスキー場であることが多く、若いうちに訪れてもらわないと、後のファミリーでの再訪が難しくなるからである。

## ○取組方針

### 【メディアでの露出】

八幡平 DMO では、大黒森管理協同組合と連携してバックカントリースキーの受入環境整備を進め、また、米国人が運営する Japan Ski Tours のスタッフを八幡平に常駐してもらうことで、外国人が安心してバックカントリースキーを楽しめる環境を整えてきた。また、PowderHounds や Snow Action などネットや雑誌などの媒体に積極的に八幡平を紹介し、2019 度は SnowAction 誌に 22 ページの特集を組むことに成功した。こうした努力の結果、豪州における八幡平の認知度は 2018 年の 2% から 2019 年には 4% に倍増した。

オーストラリアをターゲットに八幡平市のスノーリゾートを紹介する Facebook「Japow Hachimantai」を運営しており、2021 年 1 月に、八幡平市松川温泉の画像を掲載した記事が評判となり、2021 年度の調査では八幡平の認知度は 34.6% まで上昇した。

引き続き、メディア等での情報発信に注力を行い、地域の認知度を高めていく。





### 【ナイトタイムの強化】

豪州人の満足度でもナイトタイムの評価が低い為、ナイトシャトルバスの活用やスキー場近辺での飲食施設の充実、ナイトホッピングツアーの実施などを通じて満足度を上げていく。

### 【八幡平の滞在拠点化】

豪州人は長期で盛岡に滞在し、その日の天候や積雪量を見て、北東北広域で滑走するスキー場を選んでいる。こうしたニーズに対応して、八幡平を拠点に北東北のスキー場が楽しめる環境を整備する。前述のナイトタイムの充実に加え、八幡平から他のスキー場に向かうレンタカーやバスツアーの実施、また自炊に対応した宿の整備などを進めていく。

また、既に Japan Ski Tours、ロジックラブマン、安比高原自然学校など八幡平を拠点とするパウダースキーガイドが充実しており、こうしたガイドから八幡平の拠点化をゲストに訴求してもらうことも有効である。

### 【安全対策の強化】

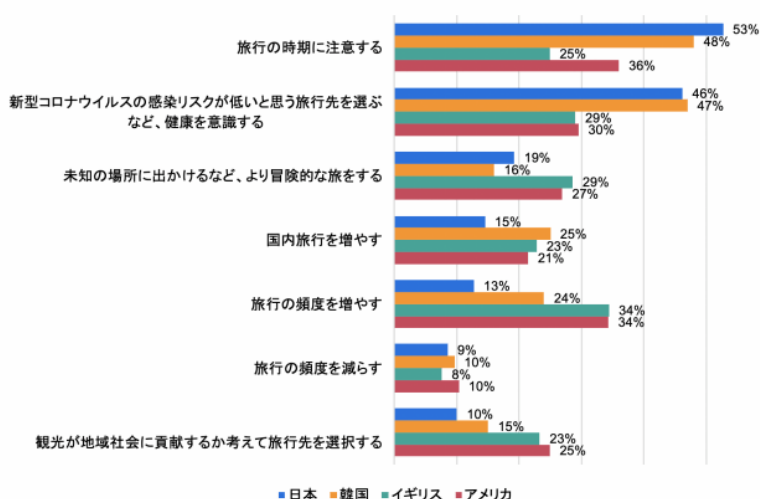
豪州人の受入が先行する白馬やニセコでは、豪州人のバックカントリーは米国や欧州と比べて、マナーが悪く、事故につながりやすいという印象が一般化している。特に、マナーの悪いガイドツアーが存在している。豪州のプロモーションと併せて、安全対策の強化とこうしたマナーの悪い団体を把握して注意していくような地域事業者間での連絡連携を高め、また地域として意識の高い活動をしていることをアピールしながら、マナーの悪い団体や個人が地域に入りづらい仕組みを構築していく。（安全対策を徹底していくことで、却って優良なゲストにとっては魅力あるスキー場になる。）

### 【サステナブルツーリズムの強化】

スカイキャナー社が令和2年度に行った「新型コロナウイルスと旅行に関する意識調査」では、「コロナ禍後、あなたの旅行スタイルはどのように変わるとお考えですか？」という問いに対して、アメリカやイギリスの約4人に1人が「観光が地域社会に貢献するか考えて旅行先を選択する」という項目を選択している。ブッキングドットコム社が2019年の「サステナブル・トラベル」に関する調査でも、サステナブルツーリズムについての意識の高さが示された。

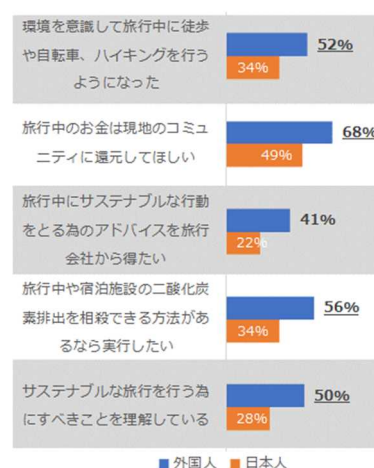
こうしたニーズに応える為に八幡平地域でもサステナブルツーリズムに注力をしていく為、令和2年3月に制定した八幡平市の総合戦略にも明記した。地元のスキー文化を育む活動の支援や、地元のバックカントリースキー愛好家と外国人が共存して楽しむ環境の整備、コアコンピタンスである雪を守る為の各施設での温暖化防止策の推進などを進めていく。

スカイキャナー社 新型コロナウイルスと旅行に関する意識調査  
「コロナ禍後、あなたの旅行スタイルはどのように変わるとお考えですか？」



<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000060.000013429.html>

ブッキングドットコム社  
サステナブル・トラベル」についての調査結果



<https://news.booking.com/sustainable-travel-report/>

### 【グリーンシーズンへの展開】

<p>スノー以外での集客は当面は難しいが温泉や紅葉への関心も高く、八幡平訪問時にスノー期以外の魅力についてのパンフレットや情報提供を行い、関心を高めていく。豪州からは日本で競馬を楽しむツアーが毎年実施されており、特定の趣味や嗜好を掘り起こした SIT ツアーであれば開拓の余地があり、そうしたニーズを絶えず探っていく。</p>
<p>○ターゲット層 台湾人ファミリー</p>
<p>○選定の理由 八幡平の訪日外国人で最も多く来訪している市場である。訪日経験も豊富で、日本への愛着心も高く、日本のマナーも習熟している。八幡平でもインバウンドに慣れていない施設でも受け入れやすい市場である。市場は成熟しているものの、毎年日本に旅行するような人も多く、八幡平でもリーチしやすい。八幡平のインバウンドのベースとなるターゲットであり、大切に育てて行きたい。</p> <p>○取組方針 【個人旅行の深耕】 八幡平 DM0 では令和元年度に繁体字のホームページを開設し、令和 2 年度には台湾人スタッフの楊を雇用して対応力を高めている。令和 3 年度からは、北東北エリアの DM0 と連携して、個人旅行のレンタカー旅をプロモーションしたり、台湾人ブロガーとの連携による情報発信、ミニツアーの展開をしたりしている。</p> <p>八幡平は全国平均に比べて団体旅行の割合が高く、個人旅行の掘り起こしが課題である。ホームページとスタッフを基軸に個人旅行に役立つ情報発信に取り組んでいく。</p> <p>【旅行会社との連携】 台湾のスキー市場は台湾在住のインストラクターがツアーを企画して日本でスキーを教えるスタイルが普及しており、インストラクターへの八幡平の認知度を高めていくことが重要である。また、スキーを専門とする旅行会社があり、日本にインストラクターを常駐させたりしているのでそうした旅行会社との連携も深めていく。</p> <p>旅行会社への関係構築は令和 2 年度に当社で雇用したオバイアを中心に深め、コロナ禍においても、JNT0 と連携してオンライン商談会等の参加を継続して実施し、コロナ後の需要に着実に応えていく姿勢をとっている。またオバイアと楊とで、特に台湾市場を開拓したい宿泊施設の営業支援を行っていく。</p> <p>【グリーンシーズンへの展開】 東北の紅葉などはすでに人気の訪問先になっており、また秋田犬など特定の地域のコンテンツもよく知られている。八幡平だけで観光は完結しないので、広域連携を進めていく。特に、八幡平は山頂を結節点に田沢湖・角館方面や十和田湖方面にドライブが可能で、こうしたルートの魅力はまだ知られていない。こうした北東北の“攻略方法”をまとめて、わかりやすく情報発信していく方針として、北東北ドライブ旅の情報発信を継続している。</p>
<p>○ターゲット層 企業の福利厚生、フリーランス、私立学校や通信制学校に通うファミリー</p>
<p>○選定の理由 十和田八幡平国立公園・八幡平地域の「岩手山・八幡平・安比高原 50km トレイル」は国立公園らしい雄大な自然を味わえるコンテンツであるが、1, 2 泊が平均の日本人観光客には踏破のハードルが高い。また、国立公園満喫プロジェクトで整備されたバックカントリースキーや国立公園近隣で味わうパウダースノーも、長期滞在することで日々変わる気候と雪質を味わう醍醐味がある。東洋一とたたかれた松尾鉾山の栄枯盛衰と環境保全、電力、温泉、農業生産にも活かされる循環する地熱、景観の再生につながる国立公園の麓における馬と共生した暮らし等、国立公園に関わる様々な環境学習は親子だけでなく、SDGs に取り組む企業にも訴求するが、これも観光と併せて提供するのが現実的で、その為には長期滞在が前提となる。さらに、北東北は首都圏などの人口密集地からの移動距離とコストが大きく、1, 2 泊の宿泊で訪れるよりは 1 週間程度の滞在でないと割に合わない感覚が訪問のハードルとなっていた。一週間の長期滞在は地域にとっても経済的なインパクトは大きく、観光産業の雇</p>

用確保、収益を観光地の魅力化や環境保全への再投資することによる集客拡大の正の循環につながる。

日本人がより気軽に1週間程度の長期休暇を取れるようになれば、この素晴らしい国立公園の自然をより多くの方に味わってもらえるが、働く人にとっては定例のミーティング、急な電話や顧客からの書類請求など突発対応がある為に一週間の長期休暇のハードルは未だに高い。また子供達も塾や習い事などで長期間家を空けるのは大変なことである。

今般の新型コロナウイルスによっていつでもどこでも仕事ができるリモートワークや子供達のリモート学習が普及した。それにより仕事しながらリゾートに長期滞在するワーケーションを行う環境は一気に整ったと言える。ワーケーションは取得する社員にとっても家族との時間やリフレッシュが実現できるし、企業側においても有休消化の促進やSDGsの実現などメリットが大きい。

八幡平はフリーランスを養成するプログラミング教室を長年実施して、フリーランスには知られた自治体であり、すでに令和元年度にはワーケーションプラットフォームのHafHを通じて22組ほどのフリーランスのワーケーションの受け入れも行っている。令和元年度には「ワーケーション全国自治体協議会」に加盟しており、ワーケーションの準備を進めてきていた。令和二年度からは環境省の国立・国定公園への誘客の推進事業及び国立・国定公園、温泉地でのワーケーションの推進事業を申請して、地域一丸となってワーケーションに取り組む方針である。

ワーケーションは大人だけでなく、リモート学習が進んだ子供達の旅行のハードルを下げる。特に今回のコロナ禍でリモート環境が整った学習塾、私立学校、N高などの通信制学校にも連携の余地がある。

#### ○取組方針

##### 【八幡平らしいワーケーションの確立】

- ・長期滞在で挑む50キロトレイル/長期滞在だから最高のパウダーに出会える/毎日温泉で湯治ができる
- ・ワーケーションで皆があこがれるオープンエアの作業環境（安比ペンションの芝生）
- ・家族で来られるワーケーション（安比高原自然学校などのアクティビティ/子供向け環境学習）
- ・SDGsとワーケーション（地熱発電と環境学習コンテンツ）

##### 【ワーケーションの受け入れ環境の課題解決】

- ・泊食分離と自炊環境 ・コンビニやスーパーなどの日用品の買い物環境
- ・滞在中の移動手段 ・宿泊施設以外のワークスペースの確保（カフェやコワーキングスペースの設置）
- ・滞在中のアクティビティの受付や手配 ・家族それぞれのニーズを満たす。特に母親向けの癒しのプログラム → 専門家を招いて長期滞在を前提したプランや環境整備を行う。

##### 【企業の開拓】

- ・首都圏で法人営業している旅行会社を通じて、総務人事担当者を招聘して、ワーケーションを社内の福利厚生として制度化できるか検討してもらう。
- ・ワーケーションの意義をSDGsの文脈で訴求する。
- ・福利厚生以外にチームビルディング、クリエイティビティを高める場としての社員旅行ニーズも探る。特に全国的に注目を集める七時雨山荘のサウナや各種温泉、また雑穀や豆腐やみそなどのマクロビオティックな食材などを活用した八幡平でのリトリートやウェルネスツーリズムを訴求する。
- ・雲上の楽園と言われた松尾鉱山、日本初の地熱発電所とその蒸気を活用した各種産業、アニマルウェルフェア、エコとオーガニックなモノづくり、パーマカルチャーなどに取り組む事業者、自然システムの再生と自然に寄り添う暮らしなどを通じ、サステナブルな経営やウェルビーイング経営の在り方とリーダーシップを学ぶ企業研修を日本能率協会マネジメントセンターと連携して展開する。

##### 【私立学校、塾、通信制教育機関】

- ・子供の学習環境としてのワーケーションを訴求し、それぞれの学校や塾のプログラムとしての導入可能性を探る。

・子供の学習の継続と長期休暇が両立することを示すことで国内の旅行需要の喚起を行う。(大人が有給をとれても、子供の塾や学校が理由で家族でバカンスができないという問題を解決する)

#### 【フリーランス】

八幡平のプログラミング教室の人的ネットワークを通じたPRを行う。

フリーランスが喜ぶビジネス支援機能（法務、税務、総務的サービス）を提供できないか検討。

### (4) 観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	<p>自然を未来につなぐまち Natural Resort 八幡平 (令和4年10月施行 第4次八幡平市観光振興計画) <a href="https://www.city.hachimantai.lg.jp/uploaded/attachment/14853.pdf">https://www.city.hachimantai.lg.jp/uploaded/attachment/14853.pdf</a></p>
②コンセプトの考え方	<p><b>「Natural Resort」として、「稼げるリゾート」へ</b></p> <p>本市の豊かな自然を維持しながら、観光による経済活性化を力強く促進し、自然に恵まれた観光地を「稼げるリゾート」に変えていくことを目指す。</p> <p>十和田八幡平国立公園八幡平地域の強みを生かしたブランディングや、ガイドの利用強化と高付加価値化、スノーリゾートや滞在環境の支援による観光客の満足度向上、歴史文化を活用した広域連携等、次世代の観光地に求められる「稼げる仕組みづくり」をアクションプランとして計画する。</p> <p><b>滞在する人にも暮らす人にも心地よい、持続可能な環境を提供</b></p> <p>本市は、色鮮やかな風景の中で、日本有数のスノーリゾートや雄大な山々でのアクティビティ、温泉等、豊かな大自然の“静と動”を体感できる観光地である。</p> <p>豊富な地熱資源が持続可能な取組みに生かされ、人と地球に心地よい滞在が当たり前提供されている。</p> <p>本市の大自然に触れることで、訪れた人自身がよりよい人生や生き方に気づく新しい発見や自分なりの冒険、言い換えれば、自然のエネルギーを自分のパワーに変える旅を体験できる。四季折々の本市の美しさの中で、自分の原点に立ち戻り、次の一步を踏み出したくなるような時間を提供する。</p> <p><b>市民の誇りにつながる観光地域づくり</b></p> <p>本市のさまざまな魅力は、このまちに住む人たちによって紡がれてきたものである。観光に訪れた人が本市のことを好きになり、訪れ続け、さらには住んでみたいと思うようになるためには、市民との「出会い」も欠かせないものとなる。</p>

そのために、市民自身が本市の魅力を知り、好きになること、市民のより多くの方々にとって観光に関わるさまざまな取組みに関わるきっかけや後押しになることを意識したアクションプランを実施する。

## 第 4 期 八幡平市観光振興計画

### 概要版

#### 計画の位置づけ

本計画は、市政運営の最上位計画である「第2次八幡平市総合計画後期基本計画」に掲げる「おもてなしの観光による交流人口の増加」の実現に向けた実施計画として位置付けるものです。

第2次八幡平市総合計画後期基本計画

【施策】▶ おもてなしの観光による交流人口の増加

八幡平市第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略

【プロジェクト①】▶ 観光客おもてなし体制強化プロジェクト

第4期八幡平市観光振興計画

#### 計画期間

本計画は令和9年(2027年)3月までの5年間に定めますが、施策によっては10年後の目標設定も行い、中長期的な視点での計画策定を行います。

八幡平市観光の将来像(長期的なビジョン)

日本の美しい四季と暮らし ナショナルパーク八幡平

本計画のテーマ

自然を未来につなぐまち Natural Resort 八幡平

#### テーマに込めた想い

「Natural Resort」として、「稼げるリゾート」へ

本市の豊かな自然を維持しながら、観光による経済活性化を力強く促進し、自然に恵まれた観光地を「稼げるリゾート」に変えていくことを目指します。

滞在する人にも暮らす人にも心地よい、持続可能な環境を提供

本市は、色鮮やかな風景の中で、日本有数のスノーリゾートや雄大な山々でのアクティビティ、温泉等、豊かな大自然の“静と動”を体感できる観光地です。自然のエネルギーを自分のパワーに変える旅を体験でき、四季折々の美しさの中で、自分の原点に立ち戻り、次の一歩を踏み出したいような時間を提供します。

市民の誇りにつながる観光地域づくり

本市のさまざまな魅力は、このまちに住む人々たちによって訪がれてきたものです。市民自身が本市の魅力を知り、好きになること、市民のより多くの方々にとって観光に関わるさまざまな取組みに関わるきっかけや後押しになることを意識したアクションプランを実施します。



## アクションプラン

本計画のテーマを実現、体現するために、次の3つのアクションプランと9つの施策を設定しました。

### 1. 「高めて、広げる」 豊かな自然の中で得られる刺激的・洗練された体験の拡充

#### 施策 1 外国人観光客の受入促進

##### 1-1 外国人観光客の受入促進

外国人観光客にとってのデスティネーション(旅の目的地)形成に向けた受入基盤整備、WEBやSNSほかデジタル技術を活用した海外向け情報発信、海外での商談会、海外インフルエンサーの活用、外国人に対応できる人材の育成等により、アフターコロナの外国人観光客から「選ばれる観光地」を目指します。

#### 施策 2 自然を楽しむアドベンチャーの推進

##### 2-1 「すべての人が楽しめる」

##### ナショナルパーク八幡平の環境整備

ナショナルパーク八幡平は、山頂付近の勾配が非常に緩やかで、誰もがアクセスしやすい日本百名山です。これを、誰もが到達できる、ユニバーサルデザインの百名山として捉え、老若男女、年齢や身体的な理由で登山を諦めていた人にも、登山の魅力を提供できる、ユニバーサルツーリズム(すべての人が楽しめるよう創られた旅行)を推進します。

##### 2-2 トレッキングガイドの観光商品・受入基盤整備

トレッキングガイドの利用促進や人材の確保、質の向上を目的に、八幡平山頂エリアのガイド人材の育成、WEBによるガイド予約販売の仕組みを構築し、ツアー造成や販売を実施します。

##### 2-3 アドベンチャーツーリズムの観光商品強化

十和田八幡平国立公園及び周辺エリアにおいては、高単価な客層に対して「自然」、「アクティビティ」、「文化体験」の3要素のうち2つ以上で構成される「アドベンチャーツーリズム」の付加価値の高い観光商品の造成と営業強化を実施します。

##### 2-4 モリアオガエルをアイコンとしたブランディング

「大涌沼モリアオガエル及びその繁殖地」は国指定から50周年を迎えます。市民も観光客も、八幡平の豊かな森と自然に誇りを持ち、天然記念物の生息地を保護する活動を広げ、ナショナルパーク八幡平を象徴するアイコンとして、ロゴやキャラクターの整備、各種情報発信やツアー造成、土産品開発等の活用を推進します。

八幡平ドラゴンアイ



#### 施策 3 国際競争力の高いスノーリゾート形成の促進

##### 3-1 市内スキー場のインフラ投資、DX基盤整備

スノーリゾートを最大の武器に、インバウンドの伸びを加速させるため、ICゲート等スキー場の適切なインフラ投資、人手不足を補うDX基盤整備の推進、広域共通リフト券の展開、グリーン期の受入基盤整備等を支援することで、スキー場の魅力度を高めます。

##### 3-2 海外ファミリー層、富裕層向けの観光商品開発

ハロウィンターナショナルスクール安比ジャンプの開校を経済効果の機会として、ファミリー向けコンテンツの開発や海外ファミリー層への発信、芸術とのコラボレーションといった上質なコンテンツの開発、グリーン期のコンテンツ開発等、富裕層受入に見合う価値の創出を行います。

##### 3-3 宿泊施設、観光施設の上質化や多様化

国等の支援を活用し、スキー場や国立公園のベースタウンとなる宿泊施設や観光施設において、上質かつ多様な滞在環境の開発促進を行います。宿泊事業者の高齢化等が進む八幡平温泉郷においては、治食分離、地域まるごとホテルの推進等、中長期滞在者を対象とした滞在環境の充実化を図ります。また、ワーケーション滞在等の支援も引き続き実施します。

さらに、今後の観光集客における重要な要素として、省エネ、カーボンニュートラル、廃棄物の削減を意図した取り組みを行います。

##### 3-4 バックカントリーの受入環境整備

CAT(雪上車)利用推進やバックカントリーエリアでのマナー啓発、雪崩リスク管理や環境破壊への対策、夏季の環境整備等を通じて、持続可能な八幡平バックカントリーエリアを推進します。

#### 施策 4 スポーツツーリズムの推進

##### 4-1 スポーツツーリズムの推進

スキー場やサッカー場、ラグビー場等の施設を活用したスポーツツーリズムによる受入を推進します。また、社会人チームの誘致、観光資源との連携による延泊につながる取組みにより経済効果の拡大を狙います。

##### 4-2 サイクルツーリズムの振興

八幡平アスピーテラインや八幡平パノラマライン等、景観に優れたルートを活用し、八幡平ヒルクライム大会の実施や、e-bikeを活用したライドツアーを造成します。また、国内外に八幡平サイクルツーリズムの情報や魅力の発信を行います。

八幡沼と高山植物





## II.「伝えて、育む」 八幡平市の歴史風土や自然環境の魅力発信と持続・発展

### 施策 5 地熱等の資源からSDGs、サステナビリティを学ぶ

#### 5-1 地熱、松尾鉱山等を活用した教育旅行、企業研修の推進

地熱発電所による地熱資源を活用した農業や地熱蒸気を使った地熱染め、安比高原の中のまきばの野芝の再生活動等、サステナブルな取り組みが行われています。

こうした地域資源や松尾鉱山の学びを生かして、教育旅行や企業研修誘致の取組みを推進し、閑散期の集客を目指します。



焼走り熔岩流

### 施策 6 地域の歴史的・文化的資源、食文化の活用

#### 6-1 歴史的・文化的資源を活用した広域連携の強化

令和2年「奥南部」漆器産地〜安比川流域に受け継がれる伝統技術〜」が、文化庁の日本遺産に認定されました。

また、令和3年には「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録されたことにより、北東北での周遊のニーズが高まると想定されます。

江戸時代の物流を支えた鹿角街道、古くから続く馬事文化に絡め、安比高原の中のまきばも、地域資源として積極的に活用し、文化や歴史を共有する自治体との広域連携強化を推進していきます。

#### 6-2 食の体験コンテンツ強化

地域食材の活用や食の体験コンテンツの提供を推進し、観光客の満足度向上につなげます。

また、アグリツーリズモをテーマとした食や農の体験プラン作成、食材情報プラットフォームの整備を通じ、農（みのり）の観光コンテンツ化を目指します。

#### 6-3 市民向けの観光体験提供

市民や、次世代を担う子供達が地域への誇りと愛着を醸成する取り組みとして、観光に関する授業や市民向けの観光体験会を実施し、観光人材の確保につなげます。

## III.「つなぐ」 八幡平市観光全体を推進する取組み

### 施策 7 豊かな観光資源を次世代につなぐ

#### 7-1 観光資源の保全

貴重な観光資源の喪失を防ぐため、市民や観光関係事業者を中心に、観光資源の維持・保全に係る取組みや民間資金を募るクラウドファンディング等による資金調達を検討します。

また、これまでの活動を支援し、次世代に観光資源を引き継ぐ活動に取り組んでいきます。

### 施策 8 交通アクセスの拡充

#### 8-1 交通アクセスの拡大・改良

観光需要に配慮したコミュニティバスの利用検討と電気バスやEV車等の導入の推進、自家用有償運送等の新たな移動手段の検討と岩手山サービスエリアのバス停設置を通じ、観光客のアクセス向上を目指します。



安比高原(ブナ二次林)

### 施策 9 観光推進体制の強化

#### 9-1 観光推進体制の強化

市観光協議会や市観光振興審議会と連携し、計画のPDCAを推進し、進捗状況の評価や検証する体制を強化します。さらに、観光経営人材育成や観光施策財源確保に向けた検討を行います。

また、関係人口、交流人口の増加につながる、ファンコミュニティの仕組みづくりを構築します。



世界に誇れるパウダースノー

## 5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	<p>令和4年9月に施行された第4次八幡平市観光振興計画については、令和3年の4月～令和4年3月までの1年間、市商工観光課と八幡平DMOが事務局となり、地域の観光関連事業者の若手を中心となって、月に1～2回の頻度で計画策定会議を実施して素案を策定した。この素案を、八幡平市観光振興審議会で審議し、協議、合意形成を重ねて施行されたものである。</p> <p>市内事業者を巻き込んで作成した観光振興計画には、アクションプランと実施主体が記載されており、観光事業者はもちろん、八幡平市、八幡平市観光協会、そして八幡平DMOそれぞれが計画実現に向けたアクションを実施することとしている。</p> <p>この観光施策については八幡平市観光振興審議会がレビューを行うこととなっており、計画の進捗状況と照らし合わせて、PDCAを回し、KPIの達成状況を確認することとしている。</p> <p>また、年に4回程度、八幡平市長を会長とした八幡平市観光協議会を開催し、各種観光施策について協議を行う。また、八幡平市商工観光課、八幡平市観光協会、八幡平市商工会、八幡平DMOの4者がこの協議会の事務局として、施策の共有や実施状況等について共有している。</p>
	<p>八幡平では観光地域づくり法人として株式会社八幡平DMOが認定DMOとなってインバウンドの受入基盤整備やコンテンツ造成を担い、経済団体として八幡平市観光協会が観光案内や観光イベントの実施、八幡平市商工会が観光事業者の経営支援を行ってきた。</p> <p>令和2年3月に地元の観光事業者とこれらの経済団体と行政が一体となって観光推進を行う組織として、八幡平市観光協議会を立ち上げた。この中で、国際競争力の高いスノーリゾート形成を、八幡平市の観光振興の中核となる事業として進めることとしている。なお、本協議会は以下のような内容に取り組むことを目的としている。</p> <p>(1) 八幡平市の観光振興に係る計画案の協議・検討に関すること。</p> <p>(2) 2021東北デスティネーションキャンペーンに係るプロモーション、コンテンツ造成等の検討・実施に関すること。</p> <p>(3) 国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業に係る事業内容の検討・実施に関すること。</p> <p>(4) エコツーリズム推進法(平成19年法律第105号)の地域認定に係る検討・事業実施に関すること。</p> <p>(5) 観光に係る各種組織との連携協議・事業等の役割分担を踏まえ、各種企画、実施事業に係る地域内の合意形成に関すること。</p> <p>(6) 国、県及び関係機関等が行う観光に関する事業との連携に関すること。</p> <p>(7) その他必要と認められる事項</p>

本協議会の構成員は以下のとおりであり、別途部会を設置して、定期的に開催し、フォローアップなども行いスノーリゾート形成促進事業に取り組む。

八幡平市観光協議会 構成員

NO	所属等	所属・役職	氏名
1	一般社団法人八幡平市観光協会	会長	米川 次郎
2	八幡平市商工会	会長	高橋 寛一
3	八幡平市ホテル協議会	会長	高橋 三男
4	安比ペンションワイルド	代表	ペンションサンダーバレイ 菊崎 豊弘
5	安比民宿協会	組合長	カントリーハウスせき 関 祐輔
6	八幡平スポーツ誘致委員会	会長	片野 正子
7	八幡平市グリーンツーリズム協議会	会長	米川 次郎
8	岩手山・八幡平・安比高原60kmトレイル協議会	会長	高橋 時夫
9	安比高原スキー場	支配人	高山 謙一
10	東北リゾートサービス株式会社	代表取締役兼支配人	佐藤 圭一
11	大黒森管理組合	理事長	鈴木 史司
12	岩手県北自動車株式会社	代表取締役社長	松本 順
13	東日本観光鉄道株式会社盛岡支社	観光推進室長	内川 秀人
14	西彼観光センター株式会社	代表取締役	山口 桂
15	株式会社陸奥みどり	代表取締役	佐宮 隆一
16	株式会社サラダファーム	代表取締役	田村 昌則
17	ロッジタテム	代表取締役	矢部 豊
18	岩手県立大学	総合政策学部 教授	渋谷 豊太郎
19	岩手県立大学	総合政策学部 准教授	平佐達 道宏
20	株式会社 岩手銀行	平蔵支店長	市田 孝
21	株式会社 八幡平DMO	代表取締役	嶋のいづ
22	八幡平市	八幡平市長	田村 正彦
オブザーバー			
23	岩手県劳工労働部	国際観光担当課長	永山 光悦
24	盛岡広域振興局経営企画部産業振興室	特命課長	西山 和寿

八幡平市観光協議会 役員

役職	所属等	所属・役職	氏名
会長	八幡平市長		田村 正彦
副会長	一般社団法人八幡平市観光協会	会長	米川 次郎
副会長	八幡平市商工会	会長	高橋 寛一
理事	八幡平市ホテル協議会	会長	高橋 三男
理事	安比民宿協会	組合長	カントリーハウスせき 関 祐輔
理事	岩手山・八幡平・安比高原60kmトレイル協議会	会長	高橋 時夫
理事	安比高原スキー場	支配人	高山 謙一
監事	株式会社サラダファーム	代表取締役	田村 昌則
監事	株式会社陸奥みどり	代表取締役	佐宮 隆一

八幡平 DMO では、令和3年度まで、季刊で八幡平観光新聞を発行していたが、よりリアルタイムな情報発信とするため、令和4年より月に1回、市民向け、関連事業者向けに観光関連情報を共有する「ニュースレター」発行にリニューアルし、地域事業者向けにFAX送信、その他ウェブサイト掲載を実施している。また、年に1回、市民向けの説明会を実施し、前年度の施策の進捗を報告している。

## News Letter 01

2022.09.01

発行元：株式会社八幡平DMO

発行人：八幡平DMO 平井/八幡平市役所 鈴木

## 「ニュースレター再開について」代表取締役 嶋のいづ

八幡平DMOでは、既存の外国人スタッフ2名に加え、観光庁等からの外部専門人材の支援を受けながら、八幡平市の観光振興に寄与する幅広い事業を企画・提案・実施しています。よりフレッシュな観光関連情報を発信するため、今号よりニュースレターの体裁でお届けします。どうぞお楽しみに。

## ■とっぴきり八幡平（国）八幡平山道開通記念バスツアーを実施しました！（鈴木）

2月に行った星室案内講座の、ワークショップ案を商品化したツアーを行いました。募集に際し、ご協力を頂きました皆様により御礼を申し上げます。

当日は13名のご参加で、素晴らしい景色のもと非常に満足度の高いツアーとなりました。今年度は実現も兼ねた1度の開催ですが、本企画が八幡平観光の目玉の一つとして参加者も居ました。継続コンテンツ化を目指し、地域の発展と貢献を目指してまいります。

※当日の様子等は八幡平DMO Facebookにて掲載しています。

宜しければ是非ご覧ください。



## ■オンラインで台湾市場開拓事業！台湾人ブログアールによるLIVE配信を行いました！（嶋）

7月22日から24日に八幡平アンバサダープログラムの「三山」さん（フォロー5.2万人）が台湾から八幡平に参訪。最終日は「カフェ&スナックFika」でSNSのLIVE配信を行い、自身のファンへ八幡平の紹介をして頂きました。LIVE中はコメントも飛び交い、台湾人の八幡平への興味関心の高まりを感じました。

LIVEの様子は下記QRコードから録画をご覧ください。

※QRコード：「アンバサダープログラム」定期的に自身のファンへSNSで八幡平の情報を発信し、観光振興活動に八幡平への関心を高めようとしています。

※QRコード：録画：https://fb.watch/9Q689p-2/

日本への観光旅行は様々な制限があり旅行客数は少ないですが、台湾人はSNS等で積極的に観光情報を収集しており、日本に行きたい人は多いです。引き続きプロローと協力して台湾人客を誘致します。

## ■八幡平を盛り上げるドイツ人インフルエンサーを案内しました！（オババ）

ドイツ人インフルエンサーであるエリサ・エンゲルマン氏（Instagramフォロワー4,500人、月間ウェブサイトビュー数：3万7,000人）より、ドイツの視聴者へ八幡平をPRしたいと連絡がありました。事業者の皆様のご協力を得て、地熱染色、マウンテンバイク、古民家サウナ、温泉などを体験・案内しました。

エリサさんは日本プロローとして、Googleドイツのランキングではトップの方で、いち早く観光視察が緩和されたヨーロッパ市場における新たな市場開発となるよう、連携を取り合いながら情報発信をしてく予定です。

※当日の様子等は八幡平DMO Facebookにて掲載しています。

宜しければ是非ご覧ください。



## News Letter 02

発行元：株式会社八幡平DMO

〒028-7111 岩手県八幡平市大東25-68-2

院福ビル2階D号

電話番号：0195-78-8882

発行人：八幡平DMO 平井/八幡平市役所 鈴木

2022.10.01

## ■JALファーストクラスのシェフと八幡平食材のコラボ！「八幡平山道」試食会を開催しました！（嶋）

新井ならぬ山井！日本航空株式会社様とのコラボ、JALファーストクラスのシェフと一緒に「八幡平山井」を開発しています。八幡平の食材をふんだんに使ったこだわりの山井、美味しさや栄養価はもちろんなこと。実は、製造工程からの衛生管理を徹底し、リユースで持ち帰って美味しい盛り付けをキープ！などさまざまな工夫を凝らし、機能性にも配慮した、まさに山歩きのためのお伴いなのです。今後、メニューの改良を重ね、来年の春にはお披露目できる予定。完成まで、どうぞお楽しみに。

※八幡平DMO Facebookにてメディア記事のURLを掲載しています。宜しければ是非ご覧ください。

URL: https://bit.ly/3K5Dm0s



## ■レンタカーを利用してディーゼル車北北の街を満喫！（嶋）

八幡平DMOの創業で、令和4年度台湾人向け北北北レンタカー（国）宣伝事業を、秋田ツーリズム「かづのDMO-VISIT」はちのちの3社と共同で実施。本事業では、東北訪問が多い、北海道・沖縄のレンタカー一泊に備えた台湾人をターゲットに、各エリアの魅力情報をオンラインで発信しています。

レンタカー事業LP: https://www.northernhokkaido-cars.com/

その他にも、日本国内で様々なイベントを開催しています。例えば、自ら考えたレンタカーの行程をSNSで投稿してもらったり、特定の観光スポットでバスポート提示すると、ご当地のプレゼントがもらえたり（八幡平ではサラダファームさんにご協力頂いています）。また、台湾現地観光客に出展するなど、緩和が進むインバウンド旅行を八幡平へ呼び込むように頑張ります。

※参加者が体験レポートSNSに投稿！Yahoo!ニュースにも掲載！「あしるぐるチャリ」体験会の開催（田村）

今年度よりスタートした新規観光アクティビティ「あしるぐるチャリ」！ここ数年安定エリアで新しく始まった数々の商品やサービスを、遠方からの観光客だけでなく、八幡平市近郊に在住の皆様にも改めて体験を申し込んで頂くことで体験会を開催致しました。当日は遠方市や北上・奥州・東奥等から16名が参加。参加者全員がSNS利用者であり、体験レポートを投稿頂くことで、今回の体験会効果として、あしるぐるチャリは約4340名の方々に知っていただくことが出来ました（Instagramリーチ数）。年度内に関する観光アクティビティ体験会は今と次回開催予定です！是非ご参加ください！

※当日の様子等は八幡平DMO Facebookにて掲載しています。

宜しければ是非ご覧ください。

URL: https://bit.ly/3K5Dm0s



観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築

- ・毎年度、サービス向上に資するセミナーを実施（2021年度はアドベンチャーツーリズムガイド研修、サクラクオリティ研修、食の多様性に関する研修などを実施）
- ・毎年度、DMOによる外国語表記のコンサルティングを5、6事業者向けに実施（飲食店のメニュー、店内表示、アクティビティ事業者の説明書などの多言語化を支援）

	・満足度調査内容のフィードバック
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	(例) ワンストップ窓口の実施、SNSを利用した効果的なプロモーションの実施。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

## 6. K P I（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間に於ける明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

### （１）必須 K P I

指標項目		2020 (R 2) 年度	2021 (R 3) 年度	2022 (R 4) 年度	2023 (R 5) 年度	2024 (R 6) 年度	2025 (R 7) 年度
●旅行消費額 (百万円)	目標	2,040	3,900	4,400	10,000	10,500	11,000
		(-)	(-)	(800)	(3000)	(5600)	(9700)
	実績	204	390	8,010			
		(-)	(-)	(460)			
●延べ宿泊者数 (千人)	目標	283	568	400	450	520	560
		(-)	(-)	(20)	(70)	(130)	(180)
	実績	514	340	374			
		(-)	(-)	(12)			
●来訪者満足度 (7点満点中)	目標	6.4	6.48	6.24	6.25	6.28	6.28
		(-)	(-)	(6.10)	(6.15)	(6.2)	(6.4)
	実績	5.95	6.48	6.11			
		(-)	(-)	(5.88)			
●リピーター率 (%)	目標	72.0	83.0	83.0	82.0	81.0	80.0
		(-)	(-)	(86.0)	(55.0)	(57.0)	(58.0)
	実績	67.3	83.0	78.2			
		(-)	(-)	(36)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

### 目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

#### 【検討の経緯】

令和３年度から令和４年度にかけて、八幡平市では八幡平市観光振興計画を策定した。若手の事業者のヒアリングと発案を軸に素案を作成し、八幡平市に関わる宿泊施設、観光施設、ガイド、交通事業者、金融機関、大学などで構成される八幡平市観光協議会で議論され、有識者で構成される八幡平市観光審議会で承認された計画である。

KPIについてもこの計画で改めて設定され、令和４年以降の計画値はこの計画に基づいて設定されている。

#### 【設定にあたっての考え方】

##### ●旅行消費額

昨年度までは旅行消費額は一人一日当たりの消費単価で計測していたが、今後は総額を集計して KPI とした。一人一日当たり消費単価は（２）その他目標値で計測を継続する。

令和３年度１２月から稼働した宿泊施設における QR コードによるアンケート調査（令和３年１２月～令和４年１０月現在 70 施設が協力し、1434 サンプルを収集した。）を活用し、滞在日数と一人一日あたりの単価を割り出し、各宿泊施設が報告する延べ宿泊者数を掛け合わせて集計する。

令和３年度より稼働したもので、従前の県が収集したデータと対象が異なるため、連続性がないがコロナを経て大きく状況が変わるため、令和４年以降を新たなスタートとして P D C A を行うこととした。

日本人観光消費額の1人当たりの消費額について、令和4年度は22,118円となっており、令和3年度と比較すると3,442円減少した。この原因は、ウィンターシーズンのみで実施していた調査期間を通年に広げたことにより平均消費額が下がったためと考えられる。

・訪日外国人観光消費額の1人当たりの消費額について、令和4年度は36,286円となっており、コロナ前の令和元年度と比較すると4,741円減少している。水際対策の緩和でインバウンドの回復が見られたものの、消費単価の高い傾向の中国からの入込みが本格的に回復していないことが伸び悩んだ要因と考えられる。

#### ●延べ宿泊者数

宿泊者数は八幡平市が集計している。4半期に一度、市役所が宿泊施設からデータを回収している。回収率が53%であり、今後デジタルでの報告を可能にしたりPMSやサイトコントローラーなどとの連動する仕組みを検討し、回収率および精度の向上、またリアルタイムの分析ができるようにすることを検討している。

令和3年度は昨年度から回復しているものの、インバウンドも全く戻らない状況でコロナ前には及ばない状況である。コロナの影響で大型のチェーン系ホテルが閉鎖し、地域の客室数も大きく減った為、今後の見通しも厳しいものがあるが、安比高原の高級ホテルチェーンへのリブランドや英国名門インターナショナルスクールの開校による知名度の向上などでコロナ後の大きな回復も期待できる。

令和4年度外国人観光客入込数については、令和4年10月からの水際対策緩和により、本市では12月頃から回復傾向となった。国籍については、コロナ前の令和元年度は台湾45%、中国37%と圧倒的に占めていたが、令和4年度は、台湾25%、中国7%、香港24%、豪州15%、タイ9%、シンガポール6%と占めており国籍の分散化傾向がみられる。インバウンド入込の目標値の達成には、中国の本格的な回復がカギを握っている。

#### ●来訪者満足度

満足度調査についても令和3年度以降は前述のQRコードによる宿泊施設におけるアンケート調査で集計を行っている。これ以前に八幡平DMOが行ってきた調査はインバウンドのみが対象であったが、この仕組みでは日本人も調査対象となっている。70施設以上の調査協力があり、サンプルも年間1500件以上集まる見込みであり、精度の向上が期待できる。

コロナ禍での満足度についてはGoToトラベルや旅行支援などの影響もあり、通常時とは異なることを考慮しないといけませんが、全国平均と比べても八幡平の結果は高く出ている。

インバウンドについては全国平均より下回る結果があり、言語対応などインバウンドの受け入れ環境整備が整うことで日本人と同様に評価される見込みがあり、今後の伸びが期待できる。

日本人、外国人の総合満足度は、前回の調査結果と比較すると低下しているが、同時期の全国平均は日本人で5.98点と決して低い数値ではない。

満足度の詳細は、自然や宿泊施設の評価が高いものの、アクセス・交通利便性、飲食店、買い物などのインフラ面での満足度が低い結果となっている

#### ●リピーター率

リピーター率について、令和3年度より以前は、県のデータを利用していたが、前述の宿泊施設におけるQRコードによるアンケート調査で集計し、日本人も対象となった。集計システムの変更が伴ったとはいえ、令和3年度のリピーター率が8割を超えてかなり高くなっているのは、GoToトラベルや県民割に伴い、県内比率が大きく高まっている影響が考えられる。コロナ後は県外の未だ八幡平を訪れたことがない新規客が増えていく見込みである。

現在、八幡平DMOではファンクラブおよびCRMシステムの実装を検討している。このシステムが実装されればリピーター率だけでなく、リピート率が図れ、真に伸ばすべき指標を設定できることが期待される。



日本人リピーター率は、令和4年度実績値と令和3年調査結果を比較すると4.8%低下しているが、令和4年度は全国を対象とした宿泊割の効果などにより、初めて八幡平市を訪れる観光客の割合が増加したことでリピーター率が低下したと考えられる。

外国人リピーター率は、インバウンドの再開直後ということで、すぐに動ける新規性を好む客層の動きが多い傾向だったことにより、初めての訪問が多かったと考えられる。

注：外国人リピーター率目標値の見直し

- ・見直しの理由は、令和元年度実績値の誤りによる目標値の修正。
- ・令和元年度実績数値の修正に伴い、目標値を変更する。
- ・修正後の計画値

項目	令和元年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
リピーター率外国人	55%	55%	57%	58%	60%

## (2) その他の目標

指標項目		2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度
●ウェブサイトのアクセス数 (%)	目標	—	—	10,000	15,000	20,000	25,000
		(—)	(—)	(6,000)	(8,000)	(12,000)	(15,000)
	実績	22,431 (7,832)	8,434 (5,154)	11,867 (7,287)			
●事業者満足度 (7点満点)	目標	6	6.1	6.2	6.3	6.4	6.5
	実績	5.1	5.2	5.2			
●台湾からの認知度 (%)	目標	—	—	70	20	22	24
	実績	24.6	67.8	17.33			
●豪州からの認知度 (%)	目標	—	—	3.6	13	15	18
	実績	3.6	3.4	10.67			
●一人一日当たり消費額 (円)	目標			26,000	26,500	27,000	27,500
				(42,000)	(42,500)	(43,000)	(43,500)
	実績	12,454	20,000	25,560			
●滞在日数(日)	目標	4	3.4	3.5	2.8	3	3.2
	実績	2.33	3.35	2.66			
●再訪意向 (7点満点)	目標	6	6.3	6.55	6.55	6.56	6.57

	実績	6.5	6.54	6.37			
--	----	-----	------	------	--	--	--

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※各指標項目の単位を記入すること。

## 指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

### 【【検討の経緯】】

必須 KPI と同じ。

### 【設定にあたっての考え方】

#### ●住民／事業者満足度調査

令和 3 年度までは事業者に向けて DMO の評価や様々な要望をアンケート形式で調査を行ってきた。令和 4 年度は様々に市民向けの体験会を実施し、令和 5 年度からアンケートを展開していく予定である。地域一体となった観光地の再生高付加価値事業等の目に見える補助事業について、恩恵を受ける事業者とそうではない事業者との DMO 等に対する意識に差が出てきている。

#### ●ウェブサイトのアクセス数

八幡平 DMO が扱う Visit Hachimantai のページビューを分析している。バックカントリーなどの情報のほか、アクティビティのページビューが多い。

#### ●台湾、豪州の認知度

海外の住民を対象に日本のスノーリゾートの中で八幡平を知っているかどうかを調査している。DMO のウェブサイトや海外の商談会での成果を図る指標として実施する。令和 2 年度までは八幡平、安比を含む多くの日本のリゾートの選択肢の中から知っているところを選ぶ方式だったが、令和 3 年度より、八幡平、安比、蔵王、ニセコ、野沢などの観光地を一つ一つ、知らない、聞いたことがある、知っている、行ったことがあるなどとして聞き方を変更した。質問形式を変えたことに加え、雑誌や商談会などの効果が少しずつ出てきたこともあり認知度は向上したが、実感値よりも高いこともあり令和 4 年度から質問方法を元に戻した。豪州については観光庁事業でスキー関連事業を米国向けに展開したが、スキーウェブサイトに掲載され豪州でも認知され認知度が伸びた。

#### ●一人一日当たり消費額／滞在日数

これまで消費額としていた数字を今年度より総額で集計を行うため、その他 KPI に移動した。集計方法は前述の QR コードによるアンケート内で八幡平市内での消費額と滞在日数から算出する。八幡平市の観光振興計画では一人当たり消費額で KPI を設定しているが DMO としてはさらに分解して計測する。滞在日数を伸ばす施策とプレミアムを付けていく施策は違うものなのでそれぞれで計測することとする。

#### ●再訪意向

リピーター率の関連項目として、管理を行う。リピーター率は新規開拓を行えば自ずと現状してしまう為、目標値として扱いが難しいが、再訪意向は高める方向で目標管理が容易となる。

令和 3 年度より岩手県のデータから八幡平 DMO が独自に集計する QR コードによるアンケートから集計している。全国と比べても高い数字がでており、日本人に対しては評価が高い観光地となっている。

## 7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後3年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。  
 ※現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

### （１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2020（Ｒ２） 年度	136,933,000（円）	●八幡平市 委託事業 65,577,000 ●観光庁 令和元年度観光振興事業費補助金 （専門家人件費）（視察費） 14,230,000 ●観光庁 国際競争力の高いスノーリゾート形成計画 12,526,000 ●環境省 国立・国定公園への誘客の推進事業及び国立・ 国定公園、温泉地でのワーケーションの推進事業 13,000,000 ●観光庁 誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ 造成 30,000,000 ●ili 等販売 300,000 ●その他収入 300,000 （円）
2021（Ｒ３） 年度	120,000,000（円）	●八幡平市 委託事業 65,000,000 ●観光庁 令和元年度観光振興事業費補助金 （専門家人件費）（視察費） 18,000,000 ●観光庁 国際競争力の高いスノーリゾート形成計画 20,000,000 ●コンテンツ開発、受入環境整備系予算 15,000,000 ●旅行業 1,000,000 ●その他収入 500,000 （円）
2022（Ｒ４） 年度	100,500,000（円）	●八幡平市 委託事業 65,000,000 ●観光庁 令和４年度訪日外国人旅行者周遊促進事業費補 助金（観光地域づくり法人の体制強化） （専門家人件費） 20,000,000 ●観光庁 看板商品創出事業 12,000,000 ●ワーケーション推進事業 1,500,000 ●旅行業 1,000,000 ●その他収入 1,000,000 （円）
2023（Ｒ５） 年度	140,381,000（円）	●八幡平市 補助金・委託事業 41,381,000 ●観光庁 令和５年度訪日外国人旅行者周遊促進事業費補 助金（観光地域づくり法人の体制強化） （専門家人件費） 20,000,000 ●観光庁 商品造成関連事業 35,000,000 ●観光庁 モデル観光地調査事業 38,000,000 ●旅行業・ランドオペレーター事業 1,000,000 ●その他収入 5,000,000 （円）
2024（Ｒ６） 年度	50,000,000（円）	●八幡平市 補助金・委託事業 24,000,000 ●観光庁 令和６年度訪日外国人旅行者周遊促進事業費補 助金（観光地域づくり法人の体制強化） （専門家人件費） 20,000,000

		●旅行業・ランドオペレーター事業 1,000,000 ●その他収入 5,000,000 (円)
2025 (R 7) 年度	50,000,000 (円)	●八幡平市 補助金・委託事業 24,000,000 ●観光庁 令和 7 年度訪日外国人旅行者周遊促進事業費補助金 (観光地域づくり法人の体制強化) (専門家人件費) 20,000,000 ●旅行業・ランドオペレーター事業 1,000,000 ●その他収入 5,000,000 (円)

## (2) 支出

年 (年度)	総支出	内訳 (具体的に記入すること)
2020 (R 2) 年度	117,357,000 (円)	1) 基幹業務・調査・分析・戦略立案・合意形成 14,300,000 2) 外国人観光客受け入れ環境整備 31,318,000 3) 二次交通整備検討 7,000,000 4) プロモーション・顧客管理 26,078,000 5) 観光商品磨き上げ 40,500,000 6) FAM 等受け入れほか渉外、地域貢献活動 1,111,000 商品仕入れ 50,000 販売管理費 17,000,000 (円)
2021 (R 3) 年度	116,580,000 (円)	1) 基幹業務・調査・分析・戦略立案・合意形成 12,000,000 2) 外国人観光客受け入れ環境整備 28,000,000 3) 二次交通整備検討 6,500,000 4) プロモーション・顧客管理 24,000,000 5) 観光商品磨き上げ 30,000,000 6) FAM 等受け入れほか渉外、地域貢献活動 1,000,000 商品仕入れ 80,000 販売管理費 15,000,000 (円)
2022 (R 4) 年度	93,600,000 (円)	1) 基幹業務・調査・分析・戦略立案・合意形成 12,000,000 2) 外国人観光客受け入れ環境整備 28,000,000 3) プロモーション・顧客管理 24,000,000 4) 観光商品磨き上げ 13,500,000 5) FAM 等受け入れほか渉外、地域貢献活動 1,000,000 商品仕入れ 100,000 販売管理費 15,000,000 (円)

2023 (R 5) 年度	140,381,000 (円)	1)基幹業務・調査・分析・戦略立案・合意形成 20,000,000 2)外国人観光客受け入れ環境整備 30,000,000 3)プロモーション・顧客管理 20,000,000 4)観光商品磨き上げ 45,000,000 5)FAM 等受け入れほか渉外、地域貢献活動 1,000,000 商品仕入れ 100,000 販売管理費 24,000,000 (円)
2024 (R 6) 年度	50,000,000 (円)	1)基幹業務・調査・分析・戦略立案・合意形成 12,000,000 2)外国人観光客受け入れ環境整備 18,000,000 3)プロモーション・顧客管理 24,000,000 4)観光商品磨き上げ 13,500,000 5)FAM 等受け入れほか渉外、地域貢献活動 1,000,000 商品仕入れ 100,000 販売管理費 15,000,000 (円)
2025 (R 7) 年度	50,000,000 (円)	1)基幹業務・調査・分析・戦略立案・合意形成 12,000,000 2)外国人観光客受け入れ環境整備 18,000,000 3)プロモーション・顧客管理 24,000,000 4)観光商品磨き上げ 13,500,000 5)FAM 等受け入れほか渉外、地域貢献活動 1,000,000 商品仕入れ 100,000 販売管理費 15,000,000 (円)

### (3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

区域を構成する地方公共団体における宿泊税の導入、着地型旅行商品の造成・販売等の取組・方針を記載

令和5年度より、八幡平市の企業版ふるさと納税の支援事業を受託し、手数料をDMOの運営資金として確保する仕組みを構築。

着地型旅行商品の造成・販売等の取組・方針については、DMOが地域限定旅行業・ランドオペレーターに登録し、地域の着地型旅行商品の販売を実施する。

また「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業の伴走支援を受けながら、岩手に、圧倒的な来訪滞在価値を創造する各種事業を造成する。富裕層呼び込みをきっかけに、地域の高付加価値化と物産の世界ファンづくりを実現し、観光だけでなく域内産業の生産額を上げ、持続可能な経済・社会を目指す。

## 8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

八幡平市は、株式会社八幡平 DMO を当該市における地域DMOとして登録したいので、株式会社八幡平 DMO とともに申請します。

## 9. マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携DMO（県単位以外）や地域DMOと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携DMOや地域DMOとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

（例）エリアが重複する●●DMOとは、月に一度の連絡会を行い、各取組の意見交換を行っている。

【区域が重複する背景】

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】

※重複する活動がないか、第三者から見た際に合理的と捉えられる役割分担になっているか等を踏まえて記入すること。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

## 10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	畑 めい子
担当部署名（役職）	取締役兼 CMO
郵便番号	028-7302
所在地	岩手県八幡平市松尾寄木 1-590-497 ノーザングランデ八幡平内
電話番号（直通）	090-7528-4261
F A X 番号	050-8890-5573
E - m a i l	may@trip8.jp

## 11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	岩手県 八幡平市
担当者氏名	伊藤 孝治



担当部署名（役職）	商工観光課 観光振興係長
郵便番号	028-7397
所在地	岩手県八幡平市野駄第 21 地割 170 番地
電話番号（直通）	0195-74-2387
F A X 番号	0195-74-2102
E - m a i l	koji@city.hachimantai.lg.jp

都道府県・市町村名	
担当者氏名	
担当部署名（役職）	
郵便番号	
所在地	
電話番号（直通）	
F A X 番号	
E - m a i l	

## 基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】岩手県八幡平市

【設立時期】平成30年5月22日

【設立経緯】

①区域に観光協会があるが、役割分担等をした上でDMO新設

【代表者】寺田匡宏

【マーケティング責任者(CMO)】畑 めい子

【財務責任者(CFO)】大下 幸夫

【職員数】9人(常勤3人(正職員1人・出向等2人)、非常勤6人)

【主な収入】

収益事業 2百万円、委託事業 98百万円(令和4年度決算)

【総支出】

事業費 70百万円、一般管理費 30百万円(令和4年度決算)

【連携する主な事業者】(一社)八幡平市観光協会、八幡平市商工会、八幡平市ホテル協議会、安比高原ペンションビレッジ会、安比民宿組合、索道事業者(岩手ホテルアンドリゾート/東北リゾートサービス)、(株)クレセント、岩手県北自動車(株)、IGRいわて銀河鉄道(株)、岩手銀行、北日本銀行、盛岡信用金庫、(一社)秋田犬ツーリズム、(一財)Visitはちのへ、(株)かづの観光物産公社、(一社)日本ファームステイ協会、(株)JR東日本びゅうツーリズム&セールス、日本航空(株)、クラブツーリズム(株)、岩手大学、岩手県立大学 等

## KPI(実績・目標)

記入日: 令和5年 10月 31日

指標項目		2020 (R 2) 年度	2021 (R 3) 年度	2022 (R 4) 年度	2023 (R 5) 年度	2024 (R 6) 年度	2025 (R 7) 年度
●旅行消費額 (百万円)	目標	2,040	3,900	4,400	10,000	10,500	11,000
	実績	(-)	(-)	(800)	(3000)	(5600)	(9700)
		204	390	8,010			
●延べ宿泊者数 (千人)	目標	283	568	400	450	520	560
	実績	(-)	(-)	(20)	(70)	(130)	(180)
		514	340	374			
●来訪者満足度 (7点満点中)	目標	6.4	6.48	6.24	6.25	6.28	6.28
	実績	(-)	(-)	(6.10)	(6.15)	(6.2)	(6.4)
		5.95	6.48	6.11			
●リピーター率 (%)	目標	72.0	83.0	83.0	82.0	81.0	80.0
	実績	(-)	(-)	(86.0)	(55.0)	(57.0)	(58.0)
		67.3	83.0	78.2			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

## 戦略

【主なターゲット】

①拡大するスキー市場を狙う中国人富裕層ファミリー(20~40代) ②豪州のバックカントリースキーヤー→ファミリースキーヤー ③台湾人ファミリー

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

コミュニティからの開拓、個人旅行を開拓するための情報基盤整備、インストラクターと雪遊びの充実、ハロウスクールとの相乗効果、メディア露出、ナイトタイムの強化、

【観光地域づくりのコンセプト】

自然を未来につなぐまちNatural Resort 八幡平

## 具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】

・地域の歴史、地熱を活用した農業など地域資源を活用した企業研修や教育旅行、農業体験ツアーを企画・実施

・二次交通のない地域でe-bike導入支援し、周遊コンテンツ造成  
・漆文化と金継ぎなど高付加価値な体験コンテンツの造成

【受入環境整備】

・宿泊施設の高付加価値化支援  
・スキー場共通リフト券開発

【情報発信・プロモーション】

・びゅうトラベル「and\*trip.たびびと」に観光コンテンツ掲載

・豪スキー博出展

・北東北の複数DMOと、台湾向けに「北東北レンタカー旅」プロモーション

・台湾旅行博出展

【その他】

・アウディ「サスティナブルフューチャーツアー」招請

・INDY PASS北東北周遊スキーツアー造成



E-bike ride Tour



Indy Pass Tourでの松川温泉